

(様式第 10)

阪医病総第 11 号  
平成 27 年 10 月 22 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 大阪大学医学部附属病院  
病院長 金 倉 讓 (印)

大阪大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号
氏 名	国立大学法人大阪大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大阪大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号	電話(06)6879-5111
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 腎臓内科 3 消化器内科 4 内分泌・代謝内科 5 呼吸器内科 6 アレルギー疾患・リウマチ科 7 血液・腫瘍内科 8 老年内科 9 神経内科 10 漢方内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓血管外科 2 呼吸器外科 3 消化器外科 4 乳腺・内分泌外科 5 小児外科 6 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科 2 神経・精神科
------------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
52床	0床	0床	0床	1,034床	1,086床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	457人	661人	840.5人	看護補助者	80人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	1人	19人	1.4人	理学療法士	12人	臨床検査技師	87人
薬 剤 師	79人	1人	79.7人	作業療法士	3人	衛生検査技師	3人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	17人	その他	1人
助 産 師	40人	0人	40人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	908人	21人	923.4人	臨床工学士	27人	医療社会事業従事者	10人
准看護師	1人	2人	2.3人	栄 養 士	0人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	0人	3人	2.2人	歯科技工士	0人	事務職員	246人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	62人	その他の職員	45人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	43人	眼科専門医	20人
外科専門医	102人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	15人	放射線科専門医	31人
小児科専門医	34人	脳神経外科専門医	19人
皮膚科専門医	13人	整形外科専門医	25人
泌尿器科専門医	22人	麻酔科専門医	19人
産婦人科専門医	22人	救急科専門医	14人
		合 計	392人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	858.7人	0人	858.7人
1日当たり平均外来患者数	2,398.5人	16.2人	2,414.7人
1日当たり平均調剤数			1623.5 剤
必要医師数			228 人
必要歯科医師数			1 人
必要薬剤師数			29 人
必要(准)看護師数			512 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	315.40m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	15床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 147.31m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	14床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 55.00m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	643m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、遠心分離機、自動分析装置			
細菌検査室	135m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、顕微鏡、恒温器、安全キャビネット			
病理検査室	305m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、顕微鏡、ドラフトチャンバー			
病理解剖室	65m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、保管庫、冷蔵庫			
研究室	12434m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン等OA機器、実験台、保管庫			
講義室	1187m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 7 室	収容定員 953 人		
図書室	4041m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 一 室	蔵書数 378,000 冊程度		

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平26年 4月 1日～平27年 3月31日	
紹介率	90.9%	逆紹介率	60.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,960人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,479人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	458人	
	D: 初診の患者の数	22,452人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術 原発性若しくは転移性肝がん又は肝良性腫瘍	0人
経カテーテル大動脈弁植込み術 弁尖の硬化変性に起因する重度大動脈弁狭窄症(慢性維持透析を行っている患者に係るものに限る)	1人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	0人
重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植 重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	1人
急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ療法 急性心筋梗塞(再灌流療法の成功したものに限る。)	0人
自己口腔粘膜を用いた培養上皮細胞シートの移植術 角膜上皮幹細胞疲弊症(二十歳以上かつ書面により同意した場合であって、移植の対象となる眼球の角膜上皮幹細胞が角膜全体にわたり疲弊し、角膜の表面全体が結膜組織で被覆されているものに限る。)	0人
ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類III度又はIV度のものに限る。)	0人
上肢カッピングガイド及び上肢カスタムメイドプレートを用いた上肢骨変形矯正術 骨端線障害若しくは先天奇形に起因する上肢骨(長管骨に限る。以下この号において同じ。)の変形又は上肢骨の変形治癒骨折(一上肢に二以上の骨変形を有する者に係るものを除く。)	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援縦隔腫瘍切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 da Vinci システムをもちいた縦隔手術を高度な医療として行っている。ロボット支援手術によってより複雑で細やかな手術手技を可能としており、より低侵襲な手術が可能であると考えられる。			
医療技術名	肺移植患者に対する水素ガス吸入の安全性と有効性の検討	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肺移植患者(脳死・生体)に対して、水素ガス吸入の安全性および有効性の検討を目的として実施している。水素投与により移植肺虚血再灌流障害を軽減すると考えられ、臨床経過や酸化ストレスマーカーなどのデータ収集を行っている。			
医療技術名	冠動脈疾患に対する生体吸収性ステント留置術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 現在経皮的冠動脈インターベンション(PCI)で使用されている金属ステント部分が生体吸収性のPLA(Poly-lactide)で作られたもので、加水分解により完全に生体吸収される新しいステントである。			
医療技術名	冠動脈完全閉塞病変に対する経皮的インターベンション治療	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 治療が困難なため熟練した手技を要する完全閉塞病変に対しての冠動脈インターベンション(PCI)治療			
医療技術名	FFR、冠動脈イメージング(IVAS,OCT)による虚血性心疾患の診断と治療	取扱患者数	294人
当該医療技術の概要 従来の冠動脈造影検査に加えての画像診断技術を用いた冠動脈病変の詳細な診断と治療			
医療技術名	冠動脈高度石灰化病変に対するロータブレードによるインターベンション治療	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 先端にダイヤモンドをちりばめた高速回転ドリルによる冠動脈石灰化狭窄病変に対する治療			
医療技術名	CTを用いた冠動脈完全閉塞病変に対する経皮的インターベンション治療	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 CTとアンギオが一体となった心カテ装置を用いて行う冠動脈インターベンション(PCI)治療であり、この試みは本邦初である。			
医療技術名	3D経食道心臓超音波検査による弁膜症評価	取扱患者数	163人
当該医療技術の概要 心臓弁膜症の治療にあたり、弁および心臓の構造、形態を3次元構築し、治療に有用な評価情報を提供する。			
医療技術名	心房細動に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 心房細動に対し、三次元マッピング(Electroanatomical mapping)やイメージング画像の統合による標的決定を行う。			
医療技術名	心室頻拍に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 薬物治療が困難な心室頻拍に対し、心内膜・心外膜からマッピングを施行し不整脈回路を同定し治療を行う。			
医療技術名	先天性心疾患術後不整脈症例に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 複雑心奇形術後に発生する不整脈に対し、三次元マッピングやイメージング画像統合により不整脈起源を明らかにし、総合的な治療戦略を提供する。			

医療技術名	重症心不全・心臓非同期症例における再同期療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 心室内収縮の非同期による心機能低下症例に対し右室・左室からのペーシング治療を行い、収縮を同期させることにより心機能の改善を図る。			
医療技術名	レーザーシースを用いた植え込みデバイスリード抜去術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 先端からエキシマレーザーを放射するシースにより癒着組織を剥離し、血管内に癒着した植え込みデバイスのリードを抜去する。			
医療技術名	植込型除細動器(ICD)適応評価保留中の患者に対する着用型除細動器の使用	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ICDの適応評価中(心筋梗塞急性期など)や使用不可時期(感染)においてベスト型の心室性不整脈感知・治療デバイスを使用する。			
医療技術名	小児神経筋疾患における骨格筋生検・特殊染色	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 筋疾患が疑われた場合、筋生検が診断に必要なことが多く、通常のH&E染色以外に凍結標本を用いた酵素染色や免疫染色を各種行い、治療方針の決定に役立っている。			
医療技術名	小児難治性てんかんにおけるてんかん外科適応精査	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 難治性てんかんに対して、てんかん外科手術が症状軽減に役立つことがあり、適応があるのかどうか、どのような術式を選択することが望ましいのかを、脳波、MRI、FDG-PET、脳磁図などの、さまざまな検査を用いて解析し、治療方針決定に結びつけている。			
医療技術名	ニューロフィードバックを用いた神経疾患における機能改善リハビリテーション	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 近赤外分光装置を用いて、運動想像中の脳活動を患者にフィードバックし、脳を賦活することで、リハビリテーションによる機能改善効果を促進することができる。			
医療技術名	経頭蓋超音波検査を用いた微小塞栓子シグナルの検出	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 脳梗塞患者や頭頸部主幹動脈患者の塞栓源検索およびその活動性評価、心臓血管外科、脳外科手術時の塞栓症モニタのため、経頭蓋超音波検査(Transcranial Doppler ultrasonography:TCD)を用いた微小塞栓子シグナルの検出を行っている。			
医療技術名	神経・筋イオンチャネル病の遺伝子診断	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 周期性失調症・周期性四肢麻痺では遺伝子検査に基づく診断が必要なことがあり、患者及び家族に説明し同意の上、遺伝子検査・診断を行っている。			
医療技術名	多発性硬化症における血液中Sema4Aの測定	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 多発性硬化症患者の血清Sema4A値はインターフェロンβ治療の反応性予測に役立つため、ELISA法で測定を行い、治療方針決定に役立っている。			
医療技術名	骨格筋生検・特殊染色	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 筋疾患が疑われた場合、筋生検が診断に必要なことが多く、通常のH&E染色以外に凍結標本を用いた酵素染色や免疫染色を各種行い、治療方針の決定に役立っている。			
医療技術名	頸動脈超音波検査を用いた頸部回旋時の椎骨動脈機械的血流遮断の検出	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 椎骨動脈解離や椎骨動脈が原因と考えられる脳塞栓症、頸部回旋時の失神発作などの椎骨動脈が頸部回旋時に椎骨により圧迫され血流遮断される機序を鑑別するために、頸動脈超音波検査を用いて非侵襲的に診断する。			
医療技術名	Head-up tilt testを用いた頭頸部主幹動脈閉塞に伴う血行力学的脳虚血の診断	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 観血的動脈血圧モニタ、心電図モニタ下にHead-up tilt testに頸動脈洞マッサージ法を加味して血圧を低下させ、頭頸部主幹動脈閉塞に伴う血行力学的機序の一過性脳虚血症状(limb shakingなど)の有無を判定し、STA-MCA bypass術の適応根拠とする。			



医療技術名	1型糖尿病に対する Sensor-Augmented Pump (SAP) を用いた糖尿病治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 重症低血糖の既往を有する、あるいは低血糖が頻発する、血糖変動が大きいなど血糖コントロールの困難な1型糖尿病患者、あるいは厳格な血糖管理が必要な1型糖尿病患者に対して、SAPを用いてリアルタイムに血糖推移を確認しつつ糖尿病治療を行う。			
医療技術名	4D-Phase-contrast MRIを用いた脳動脈瘤の血流動態評価	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 心電図同期を行った3D-Phase-contrast MRAを用いて動脈瘤の血流を定量的に評価する。			
医療技術名	4D-CTAを用いた脳腫瘍の血管および血流評価	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 320列CTを用いて全脳で時間情報を含む3D-CTAを撮影し、脳腫瘍の血管および血流評価を行う。			
医療技術名	皮膚・軟部の脈管奇形に対するIVR治療	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 頭頸部・四肢・体幹部等の脈管奇形(血管奇形・リンパ管奇形及びそれらの混合型)に対して塞栓術や硬化療法などIVR (interventional radiology)治療を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	280人	・膿疱性乾癬	16人
・多発性硬化症	181人	・広範脊柱管狭窄症	12人
・重症筋無力症	376人	・原発性胆汁性肝硬変	104人
・全身性エリテマトーデス	808人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	92人
・再生不良性貧血	129人	・混合性結合組織病	137人
・サルコイドーシス	169人	・原発性免疫不全症候群	47人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・特発性間質性肺炎	45人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	552人	・網膜色素変性症	93人
・特発性血小板減少性紫斑病	214人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	83人	・肺動脈性肺高血圧症	73人
・潰瘍性大腸炎	306人	・神経線維腫症	94人
・大動脈炎症候群	159人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	42人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	78人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	20人
・脊髄小脳変性症	133人	・ライソゾーム病	87人
・クローン病	284人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	11人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	8人
・悪性関節リウマチ	25人	・脊髄性筋萎縮症	13人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	424人	・球脊髄性筋萎縮症	12人
・アミロイドーシス	14人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	28人
・後縦靭帯骨化症	110人	・肥大型心筋症	63人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	6人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	55人	・ミトコンドリア病	12人
・ウェゲナー肉芽腫症	33人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	59人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	422人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	6人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	56人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	57人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、 先端巨大症、下垂体機能低下症)	399人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

※本表に記載の無い特定疾患のうち、取扱い実績のあるものについては、別紙をご参照ください。

様式2-4別紙

	病名	人
・	巨細胞性動脈炎	1
・	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1
・	再発性多発軟骨炎	1
・	IgA腎症	2
・	多発性嚢胞腎	2

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 一般病床7対1 精神病床13対1	・総合評価加算
・臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	・病棟薬剤業務実施加算
・救急医療管理加算	・データ提出加算2
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料3.4
・妊産婦緊急搬送入院加算	・特定集中治療室管理料1.3
・診療録管理体制加算2	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算 50対1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・看護職員夜間配置加算	・小児入院医療管理料2
・看護補助加算2(精神病床のみ)	・短期滞在手術基本料1
・療養環境加算	・患者サポート充実加算
・重症者等療養環境特別加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・無菌治療室管理加算1.2	・ハイリスク妊娠管理加算
・緩和ケア診療加算	・ハイリスク分娩管理加算
・精神科リエゾンチーム加算	・退院調整加算
・がん診療連携拠点病院加算	・新生児特定集中治療室退院調整加算1.2
・栄養サポートチーム加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・医療安全対策加算1	・救急搬送患者地域連携受入加算
・感染防止対策加算1	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・高度難聴指導管理料	・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・糖尿病合併症管理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来緩和ケア管理料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・移植後患者指導管理料	・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は带状角膜変性に係るものに限る。))
・糖尿病透析予防指導管理料	・羊膜移植術
・外来リハビリテーション診療料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・外来放射線照射診療料	・網膜再建術
・ニコチン依存症管理料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・地域連携診療計画管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・がん治療連携計画策定料	・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・がん治療連携管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・薬剤管理指導料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・医療機器安全管理料1	・同種死体肺移植術
・医療機器安全管理料2	・生体部分肺移植術
・持続血糖測定器加算	・経皮的冠動脈形成術
・造血管腫瘍遺伝子検査	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・検体検査管理加算(I)	・経皮的冠動脈弁置換術
・検体検査管理加算(IV)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・遺伝カウンセリング加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・植込型心電図検査	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・時間内歩行試験	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・胎児心エコー法	・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術

・ヘッドアップティルト試験	・大動脈バルーンポンピング法 (IABP法)
・人工臓器	・補助人工心臓
・皮下連続式グルコース測定	・植込型補助人工心臓 (拍動流型)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・植込型補助人工心臓 (非拍動流型)
・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図	・同種心移植術
・光トポグラフィー	・同種心肺移植術
・脳磁図	・経皮的動脈遮断術
・神経学的検査	・ダメージコントロール手術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下胃縮小術 (スリーブ状切除によるもの)
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下肝切除術
・コンタクトレンズ検査料1	・生体部分肝移植術
・内服・点滴誘発試験	・同種死体肝移植術
・センチネルリンパ節生検 (乳がんに係るものに限る。)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・画像診断管理加算2	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・遠隔画像診断	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ポジロン断層撮影、ポジロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジロン断層撮影	・腎腫瘍凝固・焼灼術 (冷凍凝固によるもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・同種死体腎移植術
・冠動脈CT撮影加算	・生体腎移植術
・外傷全身CT加算	・膀胱水圧拡張術
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・外来化学療法加算1	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・無菌製剤処理料	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6 (歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。) に掲げる手術
・呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)	・胃瘻造設術 (内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・がん患者リハビリテーション料	・輸血管理料Ⅰ
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・医療保護入院等診療料	・内視鏡手術用施設機器加算
・透析液水質確保加算	・麻酔管理料 (Ⅰ)
	・麻酔管理料 (Ⅱ)

・磁気による膀胱等刺激法	・放射線治療専任加算
・画像誘導放射線治療加算 (IGRT)	・外来放射線治療加算
・定位放射線治療	・高エネルギー放射線治療
・定位放射線治療呼吸移動対策加算	・1回線量増加加算
・病理診断管理加算	・強度変調放射線治療 (IMRT)

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	・
・腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	・
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術	・
・経カテーテル大動脈弁留置術	・
・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	毎日 (weekday)
剖 検 の 状 況	剖検症例数 30例 / 剖検率 11.7%



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	次世代エピゲノム解析および超微細構造解析を応用した難治性心不全発症機序の解明	朝野仁裕	循環器内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
2	Hit-to-Leadの段階における心不全予測アッセイ系(申請名「心毒性を有する薬剤スクリーニングを可能にする薬剤」および「心保護ペプチドホルモン産生刺激薬剤」)のHTS系の開発)	朝野仁裕	循環器内科	300,000	補 文部科学省
3	急性心筋梗塞における侵襲的画像診断の標準化に向けた取り組み	小谷順一	循環器内科	1,000,000	委 国立循環器病研究センター
4	左室駆出率が保たれた心不全におけるカルニチンの意義	坂田泰史	循環器内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
5	IL-6アンブに着目した肺高血圧症に対する分子標的療法の開発	中岡良和	循環器内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
6	アンジオポイエチン-1を介した血管成熟化と特異化の分子機構の解明	中岡良和	循環器内科	6,890,000	補 独立行政法人日本学術振興会
7	内皮細胞を起点とした心血管系の恒常性維持機構の解明と制御	中岡良和	循環器内科	16,016,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
8	中性脂肪蓄積心臓血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発	平野賢一	循環器内科	78,078,000	補 厚生労働省
9	中性脂肪蓄積心臓血管症に対する栄養療法の開発	平野賢一	循環器内科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
10	劇症型心筋炎の画期的診断技術の確立	南野哲男	循環器内科	1,490,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
11	細胞内侵入抗体を用いた難治性循環器疾患に対する創薬基盤技術の開発	南野哲男	循環器内科	1,700,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
12	低酸素誘導性小胞体酸化還元酵素Ero1の心血管リモデリングにおける役割解明	南野哲男	循環器内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
13	急性心筋梗塞治療薬に対する新規治療薬の開発	南野哲男	循環器内科	65,000,000	補 厚生労働省
14	新規HDL結合蛋白プログラニユリンは全身性炎症・糖代謝異常・動脈硬化を抑制する	山下静也	循環器内科	5,980,000	補 独立行政法人日本学術振興会
15	症例選択基準の選定・最適化にむけたデータ評価に関する研究	山下静也	循環器内科	31,250,000	委 独立行政法人医薬基盤研究所
16	老化関連疾患治療法の探索	李鍾國	循環器内科	14,040,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
17	「胚盤胞補完による異種キメラ臓器再生」～マウス生体内にラット幹細胞由来心臓を作製	李鍾國	循環器内科	2,600,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
18	オートファジー欠損関連蛋白から創薬を探る	猪阪善隆	腎臓内科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
19	新規臓器肥大epigenetic marker H4K20ac基礎的研究	貝森淳哉	腎臓内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
20	オートファジーの慢性腎疾患進行に対する防御機構の解明	高島義嗣	腎臓内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
21	腎移植患者に対するESAと天然型Vitamin D治療	濱野高行	腎臓内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
22	アミノ酸レリジンによるuremic memory解除の試み	松井功	腎臓内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
23	粘膜免疫誘導組織および共生細菌のNSAIDs消化管粘膜傷害への関与の解明	飯島英樹	消化器内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
24	急性膵炎における腺房細胞障害の分子機構の解明	竹原徹郎	消化器内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
25	肝細胞癌の発生と進展におけるオートファジーの意義と制御機構の解析	竹原徹郎	消化器内科	5,460,000	補 独立行政法人日本学術振興会
26	免疫系を保持した次世代型B型肝炎ウイルス感染小動物モデルの開発とその応用	竹原徹郎	消化器内科	130,000,000	補 厚生労働省
27	肝細胞のアポトーシスが肝発癌を誘発する機序の解明	巽智秀	消化器内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
28	H. pylori関連胃癌過程におけるCagAと炎症のクロストークの解析	辻井正彦	消化器内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
29	臨床検体からの培養細胞を用いた消化器癌バイオマーカーの開発	辻井正彦	消化器内科	5,200,000	補 独立行政法人日本学術振興会
30	腸炎モデルマウスを用いた大建中湯の腸管免疫系への影響についての検討	疋田隼人	消化器内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
31	C型肝炎の新規薬剤に対する耐性変異ウイルスの存在頻度と治療効果との関連について	平松直樹	消化器内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
32	肥満に伴う慢性肝疾患NAFLDにおける免疫の関与とその制御に関する解析	宮城琢也	消化器内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
33	アダプター蛋白Gab1をターゲットとした新規肝癌分子標的治療法の開発	吉田雄一	消化器内科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
34	アディポネクチンを用いた膵癌のリスク因子解析および新規治療法開発	渡部健二	消化器内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
35	劇症1型糖尿病の成因一患者分析より新たに見出された2分子の病態学的意義の解明	今川彰久	内分泌・代謝内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
36	低侵襲アプローチによる糖尿病大血管症リスク層別化システムの構築	片上直人	内分泌・代謝内科	3,640,000	補 独立行政法人日本学術振興会
37	ヒト膵組織切片分析による2型糖尿病発症過程の膵島形態学的モデルの構築	小澤純二	内分泌・代謝内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
38	内臓脂肪蓄積病態への腸間膜リンパ節の関与を明らかにする研究	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
39	アディポネクチンの組織修復機構と新規内分泌因子Favineの生理病態的意義の解明	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	5,070,000	補 独立行政法人日本学術振興会
40	メタボロミクス技術を用いたメタボリックシンドローム/糖尿病/動脈硬化連関の病態解明および新たな診断・治療法の開発	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	19,500,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
41	肥満脂肪組織におけるメタボリックマップの構築～尿酸代謝と脂肪細胞機能異常～	西澤均	内分泌・代謝内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
42	肥満脂肪組織における酸化ストレス亢進とグルタチオン蓄積病態の解明	福原淳範	内分泌・代謝内科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
43	肥満におけるアディポサイトカイン異常と病態発症機構の解析	船橋徹	内分泌・代謝内科	16,250,000	補 独立行政法人日本学術振興会
44	アディポネクチンの結合蛋白を介する生理作用の分子基盤の解明	前田法一	内分泌・代謝内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
45	インスリン転写因子Mafaの新規標的遺伝子の解析と膵β細胞再生への応用	松岡孝昭	内分泌・代謝内科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
46	Sema4Aリコンビナト蛋白によるアトピー型気管支喘息への治療応用	井上幸治	呼吸器内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
47	HER2を標的とした多剤耐性小細胞肺癌の分子標的治療	木島貴志	呼吸器内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
48	びまん性肺疾患における疾患特異的自己抗体の検索	木田博	呼吸器内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
49	アディポネクチンによる全身性疾患としてのCOPDの病態解明と治療応用	武田吉人	呼吸器内科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
50	関節疾患における免疫セマファリンの骨ホメオスタシス調整作用の解明	緒方篤	免疫・アレルギー・内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
51	慢性炎症におけるガイドランス因子の病的意義の解明とその制御	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー・内科	37,908,000	委 独立行政法人科学技術振興機構

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
52	免疫難病治療のための次世代型抗体医薬開発	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー・内科	26,913,000	補 文部科学省
53	腸内フローラ操作による免疫疾患の新規制御法の開発	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー・内科	8,405,043	補 文部科学省
54	トシリズマブ投与が全身性強皮症に及ぼす影響を与えるか	嶋良仁	免疫・アレルギー・内科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
55	Wnt/decorin経路を介した造血幹細胞制御の解明	一井倫子	血液・腫瘍内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
56	BCR-ABL関連造血器腫瘍に対するSTAP-2を標的とした新規治療戦略の確立	織谷健司	血液・腫瘍内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
57	血小板インテグリン活性化機構の解明と動脈血栓形成に関する検討	柏木浩和	血液・腫瘍内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
58	AnamorsinとPicotの結合阻害を標的とした新規抗腫瘍剤の開発	齊藤則充	血液・腫瘍内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
59	免疫細胞における抗アポトーシス分子アナモルシンの役割の解析	柴山浩彦	血液・腫瘍内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
60	インテグリン活性化制御分子における機能部位の同定と新たな治療法への展開	田所誠司	血液・腫瘍内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
61	新規表面抗原ESAMを指標とした造血幹細胞の生理的特性の解析と白血球診断への応用	横田貴史	血液・腫瘍内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
62	睡眠呼吸障害による認知機能悪化のエピジェネティクス解析	伊東範尚	老年・高血圧内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
63	アルツハイマー病による全身糖エネルギー代謝への影響	里直行	老年・高血圧内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
64	糖尿病とアルツハイマー病の相互病態修飾におけるインスリン・シグナリングの役割	里直行	老年・高血圧内科	6,500,000	補 独立行政法人日本学術振興会
65	サルコペニア肥満における筋ミトコンドリア機能賦活化の意義	杉本研	老年・高血圧内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
66	$\alpha$ シヌクレインの血管内皮における新規機能及びその臨床的意義の検討	鷹見洋一	老年・高血圧内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
67	認知機能進展に対する新規診断法の開発(エピジェネティクスの臨床応用)	竹屋泰	老年・高血圧内科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
68	細胞接着阻害因子を標的として新規癌治療薬の開発	谷山義明	老年・高血圧内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
69	ペリオスチン制御による炎症関連疾患の新規治療法の開発	谷山義明	老年・高血圧内科	53,850,000	補 文部科学省
70	糖尿病・脂質異常症に対するDNAワクチンの開発	森下竜一	老年・高血圧内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
71	農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発(タンニン類に着目したリンゴ・茶の生体調節機能の医学的検証と高含有品種育成など活用に関する研究開発)	森下竜一	老年・高血圧内科	819,000	委 農林水産技術会議事務局
72	農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発(タンニン類に着目したリンゴ・茶の生体調節機能の医学的検証と高含有品種育成など活用に関する研究開発)(一般管理費)	森下竜一	老年・高血圧内科	81,000	委 農林水産技術会議事務局
73	酸化脂質によるアンジオテンシン2受容体活性化の機序の解明と病態生理学的意義の検討	山本浩一	老年・高血圧内科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
74	地域に生き世界に伸びる総合診療医養成事業 ～超高齢社会を切り拓くりーダー型高度医療人養成～	樂木宏実	老年・高血圧内科	2,150,000	補 文部科学省
75	サイトカイン網羅解析による膠原病性肺高血圧・レイノー症状の病態解析	萩原圭祐	漢方医学科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
76	筋の老化防止用の新規な医薬組成物の開発	萩原圭祐	漢方医学科	1,000,000	補 文部科学省
77	小児重症心不全に対する小児用補助人工心臓および再生治療を用いた集学的治療の開発	上野高義	心臓血管外科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
78	大動脈解離に対する統括的治療戦略の構築	倉谷徹	心臓血管外科	5,720,000	補 独立行政法人日本学術振興会
79	再生医療等の安全性確保等のための基準策定に関する研究	澤芳樹	心臓血管外科	19,500,000	補 厚生労働省
80	カタール国と我が国の医療分野における人材育成支援事業	澤芳樹	心臓血管外科	77,641,902	補 文部科学省
81	重症心不全に対するmicroRNAを応用した治療法の開発	澤芳樹	心臓血管外科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
82	次世代機能代替技術の研究開発／次世代再生医療技術の研究開発／生体内で自己組織の再生を促すセルフリー型再生デバイスの開発(幹細胞ニッチ制御による自己組織再生型心血管デバイスの基盤開発)	澤芳樹	心臓血管外科	2,734,900	委 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
83	iPS細胞を用いた心筋再生治療創成拠点	澤芳樹	心臓血管外科	347,100,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
84	重症心不全に対する骨格筋芽細胞シート移植による心筋再生治療の実用化研究	澤芳樹	心臓血管外科	36,400,000	補 厚生労働省
85	心不全心筋組織における「やわらかさ」の意義とその応用による外科的治療法の開発	澤芳樹	心臓血管外科	13,650,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
86	iPS細胞を用いた三次元心筋組織チップ自動作製装置の開発	澤芳樹	心臓血管外科	1,950,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
87	脳/心血管領域におけるアンメットニーズに対応する創薬研究	澤芳樹	心臓血管外科	123,500,000	補 厚生労働省
88	小児重症拡張型心筋症へのbridge-to-transplantation/recoveryを目指した骨格筋芽細胞シートの開発と実践	澤芳樹	心臓血管外科	119,700,000	補 厚生労働省
89	次世代機能代替技術の研究開発/次世代再生医療技術の研究開発/生体内で自己組織の再生を促すセルフフリー型再生デバイスの開発(幹細胞ニッチ制御による自己組織再生型心血管デバイスの基盤開発)	澤芳樹	心臓血管外科	34,186,250	委 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
90	ヒト由来の培養促進添加物の開発	澤芳樹	心臓血管外科	4,800,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
91	遺伝子・細胞・組織工学の国際的技術を集結させた心筋組織の構築と心不全治療への応用	澤芳樹	心臓血管外科	22,677,600	委 独立行政法人日本学術振興会
92	ハイリスク大動脈弁狭窄症患者に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術の有用性の評価-日本における大動脈弁狭窄症に対する総括的治療戦略の構築-	澤芳樹	心臓血管外科	52,000,000	補 厚生労働省
93	疾患特異的iPS細胞を用いた創薬スクリーニングシステムの開発	澤芳樹	心臓血管外科	49,920,000	補 厚生労働省
94	iPS細胞由来アロ心筋細胞移植に対する免疫寛容誘導法の開発	福嶋五月	心臓血管外科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
95	重症拡張型心筋症患者の生命予後改善・人工心臓離脱を目指した新規オキシム誘導体徐放性製剤による体内誘導型再生治療法の開発と実践	宮川繁	心臓血管外科	98,400,000	補 厚生労働省
96	iPS細胞由来心筋細胞を用いた三次元心筋組織構築による次世代心筋再生治療法の開発	宮川繁	心臓血管外科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
97	PPAR-gamma活性化による新たな肺癌分子標的療法の開発	井上匡美	呼吸器外科	2,860,000	補 独立行政法人日本学術振興会
98	肺移植後の拒絶反応抑制の治療方法の開発-IL-6増幅回路の遮断を用いた治療戦略-	奥村明之進	呼吸器外科	3,510,000	補 独立行政法人日本学術振興会
99	肺胞再生サイトカインを産生する細胞シートの開発、および肺気腫に対する治療への応用	奥村明之進	呼吸器外科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
100	水素ガスをを用いた肺移植後虚血再灌流傷害への新たな治療法の開発	川村知裕	呼吸器外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
101	癌微小環境を標的とした肺癌治療の開発	新谷康	呼吸器外科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
102	肺癌症例における血中遊離癌細胞の転移形成能獲得メカニズムの解明	舟木壮一郎	呼吸器外科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
103	新しいiPS干涉法による膵β細胞誘導因子の同定	石井秀始	消化器外科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
104	革新的新規治療法開発のための基盤創出ー消化器癌幹細胞と宿主細胞の再プログラムー	石井秀始	消化器外科	4,680,000	補 独立行政法人日本学術振興会
105	嫌気性微小環境に応答する難治性消化器癌幹細胞の新しい転写制御機構の解明と創薬応用	石井秀始	消化器外科	3,770,000	補 独立行政法人日本学術振興会
106	エピゲノム創薬(癌幹細胞のダイナミック制御に関わるヒストンH3K4脱メチル化酵素Jarid1B阻害剤のアカデミア創薬から導出まで)	石井秀始	消化器外科	6,500,000	補 文部科学省
107	数理的統計的解析による難治性癌幹細胞システムの解明と創薬応用	石井秀始	消化器外科	2,860,000	補 独立行政法人日本学術振興会
108	難治性消化器癌の革新的なRNA創薬・治療の実現化	石井秀始	消化器外科	19,999,200	委 独立行政法人医薬基盤研究所
109	大規模災害における後遺障害に対する統合医療的戦略	伊藤壽記	消化器外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
110	低酸素誘導因子による癌幹細胞制御システムの解明と新規治療ターゲットの検索	植村守	消化器外科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
111	膵癌の癌細胞-癌間質におけるmicroRNA相互作用の解明と薬剤耐性克服法の構築	江口英利	消化器外科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
112	臨床膵島移植の成績を改善するための次世代ストラテジーを用いた包括的研究	川本弘一	消化器外科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
113	治療抵抗性癌幹細胞の酸化ストレス応答を担うNrf2機能の解明と創薬シーズの開発	工藤敏啓	消化器外科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
114	胃癌患者末梢血中の癌細胞由来浮遊DNA検出法の確立	黒川幸典	消化器外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
115	消化器癌幹細胞を標的としたエピゲノム創薬の実現	佐藤太郎	消化器外科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
116	食道癌周術期管理におけるグレリンのサイトカイン分泌抑制作用効果の検討	瀧口修司	消化器外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
117	手術創の軽減に寄与する機器および手術手技の開発に関する研究	竹政伊知朗	消化器外科	400,000	委 国立がん研究センター
118	大腸がんの予後・治療応答性予測診断システムの臨床応用と実用化の研究	竹政伊知朗	消化器外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
119	癌細胞が特異的に生成するシェディング産物の網羅的解析による癌の早期診断システムの開発における尿中バイオマーカー(タンパク質断片)の探索及び胃癌試料と臨床情報の収集	土岐祐一郎	消化器外科	1,500,000	委 宮崎大学

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
120	消化器癌集学的治療におけるグレリンによる包括的支持療法の検討	土岐祐一郎	消化器外科	5,200,000	補 独立行政法人日本学術振興会
121	基礎医学研究者育成プログラム	土岐祐一郎	消化器外科	26,922,000	委 東京大学
122	消化器癌の末梢遊離癌細胞の精製と培養	西村潤一	消化器外科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
123	腸管上皮細胞に発現するLGR5のスプライシングバリエーションの解析	西村潤一	消化器外科	4,290,000	補 独立行政法人日本学術振興会
124	OSNA法を用いた直腸癌側方リンパ節郭清省略への応用	畑泰司	消化器外科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
125	術後補助化学療法におけるフツ化ピリミジン系薬剤の有用性に関する比較臨床試験(治癒切除直腸癌に対するUFT療法とTS-1療法との比較検討)	畑泰司	消化器外科	13,650	委 財団法人がん集学的治療研究財団
126	食道癌化学療法耐性におけるエクソソームの機能解明	宮田博志	消化器外科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
127	難治性消化器癌の革新的なRNA創薬・治療の実現化	森正樹	消化器外科	20,001,800	委 独立行政法人医薬基盤研究所
128	固形がん幹細胞を標的とした革新的治療法の開発に関する研究	森正樹	消化器外科	150,000,000	補 厚生労働省
129	大腸発がん関連遺伝子多型に注目したがん進展機構の解明と治療法の研究	森正樹	消化器外科	5,000,000	委 東京医科歯科大学
130	高精度の分子遺伝学的評価による食道癌治療成績向上のための包括的研究	森正樹	消化器外科	31,200,000	補 独立行政法人日本学術振興会
131	癌と生体環境のマイクロコスモスとマクロコスモス	山本浩文	消化器外科	5,200,000	補 独立行政法人日本学術振興会
132	セツキシマブ抵抗性難治性大腸癌に対するMicroRNA治療	山本浩文	消化器外科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
133	乳癌の個別化治療を目指した新しい感受性診断	金昇晋	乳腺・内分泌外科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
134	BRCA1/BRCA2変異保因者に対する乳がん早期発見・発症予防に関する研究	下村淳	乳腺・内分泌外科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
135	マイクロアレイを用いた乳癌腋窩リンパ節転移予測法の開発	直居靖人	乳腺・内分泌外科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
136	小腸移植における補体制御による新たな免疫抑制療法の開発	上野豪久	小児外科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
137	小児横紋筋肉腫における癌幹細胞の同定と免疫療法に向けた基礎的研究	上原秀一郎	小児外科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
138	横紋筋肉腫に対するヘッジホグシグナルの阻害による増殖・浸潤・転移抑制に関する研究	大植孝治	小児外科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
139	小児悪性固形腫瘍に対する抗アポトーシス分子サバイビンを標的とした分子標的治療	奈良啓悟	小児外科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
140	細胞外マトリックスを介した眼科疾患メカニズムの解明と失明予防法の研究	生野恭司	眼科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
141	生体共焦点顕微鏡を用いた角膜輪部の観察による角膜上皮幹細胞ニッチに関する研究	大家義則	眼科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
142	加齢黄斑変性に対する発症機序に基づく新規薬剤治療と1次予防の開発	瓶井資弘	眼科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
143	臨床応用を目指した角膜上皮幹細胞のex vivo expansion法の開発	川崎諭	眼科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
144	自己集合性ペプチドを用いた新規徐放剤の開発	坂口裕和	眼科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
145	フェムトセカンドレーザーを用いた無縫合角膜移植の開発	相馬剛至	眼科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
146	角膜上皮バリア機能の詳細な解析とその再生医療への応用	辻川元一	眼科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
147	角膜上皮幹細胞疲弊症に対する自己培養口腔粘膜上皮細胞シート移植の多施設共同臨床試験	西田幸二	眼科	40,000,000	補 文部科学省
148	IT融合による新社会システムの開発・実証プロジェクト/ヘルスケア分野/角膜再生医療の普及のための診断・治療IT支援システム開発・ビジネスモデル	西田幸二	眼科	36,875,900	委 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
149	iPS細胞を用いた角膜再生治療法の開発	西田幸二	眼科	169,100,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
150	iPS細胞を用いた緑内障等メカノストレス性眼疾患の病態解明と治療開発	西田幸二	眼科	15,730,000	補 独立行政法人日本学術振興会
151	環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト/先進的医療機器システムの国際研究開発及び実証/再生・細胞医療技術および製造インフラ最適化の研究開発	西田幸二	眼科	15,000,000	委 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
152	次世代医療機器評価指標作成事業(再生医療分野)	西田幸二	眼科	4,000,000	委 国立医薬品食品衛生研究所
153	iPS細胞等の安定供給と臨床利用のための基盤整備	西田幸二	眼科	19,500,000	補 厚生労働省

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
154	標的指向性・光感受性リボソームの薬物動態解析	橋田徳康	眼科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
155	電気刺激による統合的視覚回復の研究	不二門尚	眼科	6,630,000	補 独立行政法人日本学術振興会
156	読書が可能な人工視覚システム(脈絡膜上—経網膜電気刺激(STS)法)の実用化	不二門尚	眼科	37,050,000	補 厚生労働省
157	広域・多人数調査のための視線解析システムの研究開発	不二門尚	眼科	80,600	委 独立行政法人科学技術振興機構
158	毛様体神経刺激による調節可能眼内レンズの制御	不二門尚	眼科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
159	視覚の質と生体力学を考慮した角膜手術法開発のための基礎的研究	前田直之	眼科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
160	緑内障モデルにおける放射光微小血管造影法による球後眼動脈微小血管の描出	松下賢治	眼科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
161	難治性視神経症に対する電気刺激治療の発展的研究	森本壮	眼科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
162	腫瘍体積と導入化学療法に基づく下咽頭癌の個別化治療 —その予後因子の網羅的検索—	猪原秀典	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	9,100,000	補 独立行政法人日本学術振興会
163	異常眼球運動解析による中枢性疾患と末梢性疾患の鑑別	今井貴夫	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
164	甲状腺におけるガレクチン-3の過剰発現は甲状腺癌を誘発するのか？	中原晋	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
165	Wnt経路に基づいた老人性内耳障害の解明	森鼻哲生	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
166	脂肪細胞分泌因子アディポネクチン制御による新規関節リウマチ治療法の確立	蛭名耕介	整形外科	2,470,000	補 独立行政法人日本学術振興会
167	BMP骨組織再生におけるテリパラチド併用効果の検討	海渡貴司	整形外科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
168	股関節疾患の病態と治療に関するkinematics・kineticsの解明	坂井孝司	整形外科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
169	臼蓋形成不全症とミトコンドリアDNAハプロタイプの関連の解明	菅野伸彦	整形外科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
170	C1q活性抑制による新規関節リウマチ治療薬の開発	富田哲也	整形外科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
171	新規マウス軟部肉腫高肺転移株の樹立と肺転移再現動物モデルの開発	中紀文	整形外科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
172	ヒト運動器細胞・間葉系幹細胞の三次元力学刺激応答におけるシグナル伝達機構の解明	中田研	整形外科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
173	周期的屈伸デバイスを用いた膝モーションイメージングシステムの開発	西井孝	整形外科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
174	超高磁場MRIを用いた中枢性・局所性関節疼痛機序の解明と非侵襲性評価システム開発	西井孝	整形外科	7,410,000	補 独立行政法人日本学術振興会
175	膝関節のin vivo四次元動態解析:正常膝、靭帯損傷膝及び靭帯再建膝	前達雄	整形外科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
176	新世代手術デバイスによる超高精度四肢矯正方法の開発	村瀬剛	整形外科	4,550,000	補 独立行政法人日本学術振興会
177	ティッシュエンジニアリングによるiPS細胞由来軟骨細胞を用いた重度軟骨損傷治療法の開発	吉川秀樹	整形外科	10,000,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
178	誘導軟骨前駆細胞の組織形成能および腫瘍形成能の解析	吉川秀樹	整形外科	2,470,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
179	次世代機能代替技術の研究開発/次世代再生医療技術の研究開発/少量の細胞により生体内で自己組織の再生を促す自律成熟型再生デバイスの開発(生体内で自律的に成熟する臓器再生デバイスのための基盤研究開発)	吉川秀樹	整形外科	5,759,000	委 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
180	次世代医療機器評価指標作成事業(三次元積層インプラント分野)	吉川秀樹	整形外科	4,500,000	委 国立医薬品食品衛生研究所
181	患者別に機能発現する階層構造インプラント	吉川秀樹	整形外科	52,402,986	補 文部科学省
182	細胞を用いた成長軟骨帯の再生	吉川秀樹	整形外科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
183	ヒト幹細胞産業応用促進基盤技術開発/ヒト幹細胞実用化に向けた評価基盤技術開発/ヒト幹細胞の安定的な培養・保存技術の研究開発	吉川秀樹	整形外科	12,592,000	委 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
184	ヒト運動器細胞三次元組織の力学刺激応答におけるシグナルカスケード	米谷泰一	整形外科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
185	薬剤を用いた薬疹モデルマウス樹立の研究	小豆澤宏明	皮膚科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
186	皮膚再生機構の解明—毛包細胞内シグナル伝達機構の解析—	板見智	皮膚科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
187	細胞膜—核内シヤトル分子Hic—5の皮膚創傷治癒における役割の解明	乾重樹	皮膚科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
188	コレステロールと11β HSD1の誘導剤による新規外用薬の開発研究	片山一郎	皮膚科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
189	アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究	片山一郎	皮膚科	14,625,000	補 厚生労働省
190	癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床試験による実用化開発	片山一郎	皮膚科	166,900,000	補 厚生労働省
191	精神神経病変と色素異常症発症に共通のmTORを介したオートファジー機構の解明	金田眞理	皮膚科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
192	結節性硬化症の皮膚病変に対する有効で安全性の高い治療薬の開発と実用化	金田眞理	皮膚科	163,800,000	補 厚生労働省
193	新規脳梗塞治療薬を目指した機能的組織再生促進医薬の開発	玉井克人	皮膚科	18,850,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
194	表皮水疱症に対する間葉系幹細胞移植再生医療の実用化研究	玉井克人	皮膚科	49,400,000	補 厚生労働省
195	骨髄間葉系幹細胞動員ペプチドによる難治性皮膚潰瘍治療薬の開発	玉井克人	皮膚科	3,250,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
196	間葉系幹細胞動員因子HMGB1の皮膚恒常性維持機構解明と皮膚難病治療への応用	玉井克人	皮膚科	9,880,000	補 独立行政法人日本学術振興会
197	神経栄養因子による皮膚感覚増感作用は温もると痒いメカニズムを説明できるか？	室田浩之	皮膚科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
198	炎症性皮膚疾患におけるケラチノサイトでのclaudin-7の発現解析とその意義	山岡俊文	皮膚科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
199	移植皮弁知覚の向上を目指して 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた研究一	富田興一	形成外科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
200	幹細胞を融合したオーダーメイド型人工神経の開発	細川亙	形成外科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
201	ポリビニルアルコールを用いた新しい乳房インプラント開発	矢野健二	形成外科	2,600,000	補 独立行政法人日本学術振興会
202	抗GM-CSF抗体投与によるALS治療の試み	奥野龍禎	神経内科・脳卒中科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
203	変性疾患における神経細胞、ミクログリアの相互作用、インフラマゾームを中心に	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	5,850,000	補 独立行政法人日本学術振興会
204	ヒトでの脳障害後の皮質脊髄路の可塑性制御機構の解明	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	13,650,000	委 独立行政法人科学技術振興機構

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
205	動脈硬化危険因子による脳小血管内皮細胞の接着機構障害とその機序の解明	八木田佳樹	神経内科・脳卒中科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
206	コネクティビティ解析による自閉症スペクトラム障害患者の脳内ネットワーク病態の解明	石井良平	神経科・精神科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
207	二連発磁気刺激による大脳皮質GABAニューロン機能評価法の精神神経疾患への応用	岩瀬真生	神経科・精神科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
208	A $\beta$ 42産生増大と細胞内long A $\beta$ の $\gamma$ セクレターゼからの解離促進の関連	大河内正康	神経科・精神科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
209	既存の大規模コホートデータを活用した網羅的解析の試み	喜多村祐里	神経科・精神科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
210	プレセリン $\gamma$ セクレターゼによるNICD、アミロイド $\beta$ などの産生機構の解析	田上真次	神経科・精神科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
211	前頭側頭型認知症における異常蓄積蛋白の分解・重合制御に関わる新規分子の探索と解析	武田雅俊	神経科・精神科	4,680,000	補 独立行政法人日本学術振興会
212	革新的技術を活用し、加齢による脳機能低下と異常蛋白蓄積につながる病理過程の上流を追求・解明し、認知症の血液診断マーカーと治療薬を開発する	武田雅俊	神経科・精神科	72,493,000	委 文部科学省
213	タウ遺伝子変異による結合蛋白との関係の変化と神経変性過程の解析	田中稔久	神経科・精神科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
214	Imaging GWAS: 日本人大脳皮質体積の全ゲノム解析	橋本亮太	神経科・精神科	9,490,000	補 独立行政法人日本学術振興会
215	霊長類におけるゲノムによる脳機能の多様性の解明	橋本亮太	神経科・精神科	2,000,000	委 大学共同利用機関法人自然科学研究機構
216	モデル動物など多角的研究方法によるアルツハイマー病関連遺伝子の同定とその機構解明	森原剛史	神経科・精神科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
217	統合失調症リスク遺伝子ZNF804Aの中間表現型および機能解析	山森英長	神経科・精神科	2,990,000	補 独立行政法人日本学術振興会
218	特発性正常圧水頭症に対する手術効果の予測に関する研究	吉山顕次	神経科・精神科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
219	脊髄損傷患者に対するリハビリテーションを併用した神経再生法の開発	岩月幸一	脳神経外科	13,200,000	委 筑波大学
220	移植治療後の慢性期完全脊髄損傷患者のリハビリテーションと脳機能再構成および脊髄再生との関連性についての評価法の開発	岩月幸一	脳神経外科	8,489,000	補 厚生労働省
221	脊髄再生に必要な血管新生を誘導する多種細胞組み合わせ移植	岩月幸一	脳神経外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
222	神経膠腫幹細胞が腫瘍内免疫およびWT1ペプチドワクチン療法に与える影響の解明	香川尚己	脳神経外科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
223	悪性脳腫瘍に対するWT1ペプチドワクチン療法の予後予測因子と免疫逃避に関する研究	橋本直哉	脳神経外科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
224	ブレイン・マシン・インターフェースによる運動・コミュニケーション機能支援装置の臨床研究	平田雅之	脳神経外科	39,000,000	補 厚生労働省
225	領野間ネットワークにもとづいたブレイン・マシン・インターフェースによる機能再建	平田雅之	脳神経外科	4,940,000	補 独立行政法人日本学術振興会
226	皮質脳波を用いたワイヤレス体内埋込型運動・意思伝達機能補填装置	吉峰俊樹	脳神経外科	12,000,000	補 文部科学省
227	BMIを用いた運動・コミュニケーション機能の代替	吉峰俊樹	脳神経外科	98,850,000	委 文部科学省
228	大動脈ステント手術後急性腎障害発生メカニズムおよび早期治療効果の検討	植田一吉	麻酔科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
229	「痛み」に関する教育と情報提供システムの構築に関する研究	柴田政彦	麻酔科	5,200,000	補 厚生労働省
230	低酸素傷害に対する麻酔薬の神経保護—パイオイメージングによる残存神経細胞の解析	澁田達史	麻酔科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
231	神経因性疼痛におけるDNA後修飾の役割の解明	中江文	麻酔科	3,130,000	補 独立行政法人日本学術振興会
232	誘発脳波に基づく客観的かつ高精度な疼痛の有無と強弱の判別法の開発	中江文	麻酔科	1,690,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
233	動物の痛みモデルの画像を用いた新しい評価法	中江文	麻酔科	934,000	補 文部科学省
234	プロポフォール樹状細胞刺激作用の生体防御、免疫病理への影響	藤野裕士	麻酔科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
235	卵巣癌腹膜播種を制御する腹水中骨髄由来細胞の同定とその役割の検討	磯部晶	産科婦人科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
236	iTRAQ法による子宮体癌化学療法抵抗性に関わる蛋白質の同定とメカニズムの解析	上田豊	産科婦人科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
237	新生児脳障害に対する臍帯血移植の実現をめざして—有効な移植法とメカニズムの解析—	金川武司	産科婦人科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
238	吹田、豊中地域における先天性心疾患の超音波スクリーニング精度の向上に関わる因子の検討	金川武司	産科婦人科	1,000,000	委 国立循環器病研究センター

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
239	ヒト病態類似モデルマウス作成を介した妊娠高血圧症候群の予知・予防・治療戦略開発	木村正	産科婦人科	11,570,000	補 独立行政法人日本学術振興会
240	不妊治療効率向上を目的とした低侵襲子宮着床能判定装置の開発	木村正	産科婦人科	7,321,240	委 経済産業省
241	In vitro盤構築モデルの作成とそれによる胎盤剥離の分子機構の網羅的解析	木村正	産科婦人科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
242	子宮体癌に対する腹腔鏡下近赤外イメージングによるセンチネルリンパ節生検	小林栄仁	産科婦人科	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
243	癌周辺微小環境を忠実に再現した新しい腹膜播種実験系の開発とその可能性の検討	澤田健二郎	産科婦人科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
244	mTORC2をターゲットとした卵巣癌の分子標的治療・予防の可能性の検討	馬淵誠士	産科婦人科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
245	ナノマテリアルを用いた胎盤形成異常モデルの確立をめざして	味村和哉	産科婦人科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
246	新しい細胞塊培養による婦人科癌の抗癌剤感受性試験の確立と応用	吉野潔	産科婦人科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
247	ダウン症における成長障害の発症機序 iPS細胞を用いた検討—	荒堀仁美	小児科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
248	CNP/NPR-B/CGMPシグナル系に焦点を当てた成長障害の病態・治療法の検討	大藺恵一	小児科	4,680,000	補 独立行政法人日本学術振興会
249	ビスフォスフォネートによる骨細胞機能制御機構の解明	北岡太一	小児科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
250	ダウン症候群の多様な症状を引き起こす21番染色体の病態責任領域の同定	北島康司	小児科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
251	染色体異常症候群における合併症の発症メカニズムの解明	北島康司	小児科	33,800,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
252	cGMP恒常産生ナトリウム利尿ペプチド受容体を用いた肺高血圧治療薬開発	小垣滋豊	小児科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
253	肝臓における周産期の糖・脂質代謝ダイナミズムの検討	近藤宏樹	小児科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
254	ライソゾーム病におけるオートファジーの病態解明と治療薬スクリーニング法の開発研究	酒井規夫	小児科	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
255	自閉症スペクトラム障害における聴覚処理過程に関する神経基盤研究	下野九理子	小児科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
256	オキシトシン点鼻による自閉性障害治療法の開発	谷池雅子	小児科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
257	発達障害児(者)支援事業	谷池雅子	小児科	9,395,000	委 堺市
258	新生児低酸素性虚血性脳症における脳血管内皮細胞保護療法の有効性の検討	谷口英俊	小児科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
259	下垂体で機能する甲状腺ホルモントランスポーターの同定と機能解析	難波範行	小児科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
260	小児血液腫瘍マーカー中央診断の推進と臨床的有用性の検討	橋井佳子	小児科	1,000,000	委 独立行政法人国立成育医療研究センター
261	同種造血幹細胞移植後のWT1ペプチドワクチン療法における分子機構の解明とその制御	橋井佳子	小児科	2,470,000	補 独立行政法人日本学術振興会
262	間葉系幹細胞を用いた小児難治性白血病に対する腫瘍選択的アポトーシス誘導効果	宮村能子	小児科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
263	小児がん経験者の性腺機能と妊孕性維持に関する研究	三善陽子	小児科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
264	幼弱脳におけるプロスタグランジンD2を介したミクログリア-神経相関の解明	毛利育子	小児科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
265	転移性腎細胞癌における診断、治療選択に有用なバイオマーカーの開発	植村元秀	泌尿器科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
266	補体制御因子CD46のT細胞関連型拒絶反応におけるメカニズムの解明と治療への応用	角田洋一	泌尿器科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
267	生殖細胞特異的に反応するTRA98の抗原遺伝子の同定とその解析	木内寛	泌尿器科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
268	炎症による前立腺発癌機構に関する研究	野々村祝夫	泌尿器科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
269	前立腺癌浸潤・転移における骨髄由来細胞の役割の検討	藤田和利	泌尿器科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
270	球状ビーズの血管内動態と最適化に関する検討:血管塞栓術のパラダイムシフトに向けて	大須賀慶悟	放射線診断科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
271	経血管治療IVRに関する研究	大須賀慶悟	放射線診断科	1,000,000	委 国立がん研究センター
272	バイオマーカーとして核磁気共鳴画像を用いた非アルコール性脂肪性肝炎の病態解析	大西裕満	放射線診断科	2,730,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
273	核磁気共鳴画像を用いた生体内鉄沈着の測定	大西裕満	放射線診断科	969,960	補 文部科学省
274	画像診断に対する多施設共同臨床試験の体制確立に関する研究	富山憲幸	放射線診断科	1,000,000	委 国立がん研究センター
275	呼吸器悪性腫瘍における画像抽出方法の考案や最適化に関する研究	富山憲幸	放射線診断科	300,000	委 国立がん研究センター
276	高分子多糖類を用いた新たな塞栓物質の開発と薬剤溶出能の検討	東原大樹	放射線診断科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
277	DNAマイクロアレイを用いた肝動脈化学塞栓療法後の網羅的発現遺伝子解析	前田登	放射線診断科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
278	肺癌に対する化学療法の効果予測と判定の為に腫瘍血流イメージング法の確立	梁川雅弘	放射線診断科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
279	頸動脈ステント留置術後の再狭窄に対するシロスタゾールの効果に関する多施設共同無作為化比較試験(CAS-CARE)	渡邊嘉之	放射線診断科	1,023,750	委 財団法人先端医療振興財団
280	MRI-CFD融合解析を用いた脳動脈瘤発生機序、成長予測に関する研究	渡邊嘉之	放射線診断科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
281	沖縄県における難治性悪性腫瘍の地域的特性の解明と新規治療法の開発に関する整理事業	小川和彦	放射線治療科	2,000,000	委 琉球大学
282	低酸素腫瘍細胞の酸素化直後における放射線治療効果を規定する機序の解明	小川和彦	放射線治療科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
283	320列CTとエアバックシステムによる、新規呼吸同期体幹部放射線照射法の開発	鈴木修	放射線治療科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
284	放射線生存曲線パラメータを規定する分子生物学的因子の包括的スクリーニング	瀬尾雄二	放射線治療科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
285	遠隔放射線治療の総合パッケージのモデルシステム作成	吉岡靖生	放射線治療科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
286	悪性腫瘍の放射線治療効率を高める新たなPET画像診断法の開発	磯橋佳也子	核医学診療科	3,120,000	補 独立行政法人日本学術振興会
287	難治性てんかんの発作焦点検出のための画像診断法の開発	加藤弘樹	核医学診療科	520,000	補 独立行政法人日本学術振興会
288	ホウ素中性子捕捉療法におけるホウ素化合物の組織内濃度の定量測定	下瀬川恵久	核医学診療科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
289	炭素11標識メチオニンによる悪性脳腫瘍のPET診断	畑澤順	核医学診療科	3,500,000	委 国立大学法人北海道大学

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
290	ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)及びがん診断に不可欠なPETプローブ・18FBPAの合成機器の開発	畑澤順	核医学診療科	4,384,327	委 公立大学法人大阪府立大学
291	酢アセチルコリン代謝のPETによる研究	畑澤順	核医学診療科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
292	医薬品の体内動態の種差:PETマイクロドーズ臨床試験による研究	畑澤順	核医学診療科	10,400,000	補 独立行政法人日本学術振興会
293	妊娠高血圧症候群の成立機序の解明と、それに基づく予防方法、治療方法の開発	熊澤恵一	産科婦人科	7,930,000	補 独立行政法人日本学術振興会
294	呼吸相での換気補助が可能な人工呼吸法の開発	内山昭則	集中治療部	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
295	ハロペリドールによる樹状細胞のレドックス平衡を介した免疫制御	柏庸三	集中治療部	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
296	腫瘍幹細胞の観点からみた新たな悪性リンパ腫の層別化	池田純一郎	病理診断科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
297	腫瘍幹細胞の観点到立脚したプラズマ技術を用いた新たな腫瘍制御	池田純一郎	病理診断科	3,380,000	補 独立行政法人日本学術振興会
298	Sema4Aにおける点突然変異と網膜色素変性症	野島聡	病理診断科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
299	NK/T細胞リンパ腫のプロテオーム解析による病態解明と臨床応用	本間圭一郎	病理診断科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
300	研究課題名なし	森井英一	病理診断科	5,688,515	補 文部科学省
301	各種腫瘍における腫瘍幹細胞動態を制御する因子に関する解析	森井英一	病理診断科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
302	lymphoplasmacytic lymphomaでの腫瘍幹細胞動態解析	和田直樹	病理診断科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
303	行為分解木による医療プロセスのモデリングに関する研究	武田理宏	医療情報部	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
304	臨床研究・治験のIT化推進のための実施プラン策定に関する研究	松村泰志	医療情報部	20,000,000	補 厚生労働省
305	血液検査結果によるがん早期診断支援システムの構築	松村泰志	医療情報部	2,730,000	補 独立行政法人日本学術振興会
306	医用画像保管システムの効率的な画像保管および閲覧を実現するログ解析手法の研究	三原直樹	医療情報部	3,770,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
307	熱中症に対する新たな臓器障害戦略:遊離核酸標的治療の有効性	小倉裕司	高度救命救急センター	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
308	侵襲時再生治療に関する研究:細胞移植法の確立と免疫応答制御メカニズムの解明	小倉裕司	高度救命救急センター	19,110,000	補 独立行政法人日本学術振興会
309	重症循環器疾患等に関する医療内容の評価に資するデータレジストリシステムの構築	嶋津岳士	高度救命救急センター	21,300,000	補 厚生労働省
310	地理情報システムを用いた重症傷病者の発生地点と病院前診療の選択に関する研究	中川雄公	高度救命救急センター	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
311	タイ国における多剤耐性アシネトバクター・バウマニを中心とする院内感染制御支援	朝野和典	感染制御部	4,160,000	補 独立行政法人日本学術振興会
312	論文博士号取得希望者に対する支援事業(KERDSIN, Anusak)	朝野和典	感染制御部	1,394,348	委 独立行政法人日本学術振興会
313	敗血症・多臓器不全における内在性幹細胞機能障害の解析と細胞移植再生治療の開発	松本直也	高度救命救急センター	4,550,000	補 独立行政法人日本学術振興会
314	シリアスゲームを取り入れた卒前医療安全教育の教材開発	中島和江	中央クオリティマネジメント部	3,946,120	補 独立行政法人日本学術振興会
315	大型骨欠損に対する次世代骨再生技術の開発	名井陽	未来医療センター	5,850,000	補 独立行政法人日本学術振興会
316	「ネッツ」の制御による重症患者に対する新しい治療戦略の提案	松本直也	高度救命救急センター	260,000	補 独立行政法人日本学術振興会
317	ミトコンドリアを起点とする慢性炎症機序の解明と心不全治療への応用	彦惣俊吾	循環器内科	6,956,731	補 独立行政法人日本学術振興会
318	重症インフルエンザ肺炎における過剰免疫反応(サイトカインストーム)調節の可能性	関雅文	感染制御部	1,427,164	補 独立行政法人日本学術振興会
319	疼痛の慢性化における注意機能のかかわり	萩平哲	集中治療部	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
320	TORC及びHDAC制御機構の解明と新規低分子化合物による神経疾患治療法の開発	佐々木勉	脳卒中センター	5,070,000	補 独立行政法人日本学術振興会
321	新規実験系による血栓形成の制御分子の解析	富山佳昭	輸血部	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
322	卵巣癌細胞が分泌する胎盤増殖因子に焦点をあてた新規抗血管新生治療の可能性の検討	坂田正博	総合周産期母子医療センター	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
323	次世代シーケンサーを用いた拡張型心筋症の遺伝子解析	平将生	卒後教育開発センター	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
324	臓器移植後急性腎障害の早期発見および早期回復—新しい指標を用いた検討—	井口直也	集中治療部	2,339,923	補 独立行政法人日本学術振興会
325	初代培養細胞塊をもちいた子宮肉腫の新しい治療戦略の樹立	木村敏啓	総合周産期母子医療センター	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
326	前庭神経系に発現するセロトニン受容体3の機能解析	滝本泰光	耳鼻咽喉科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
327	ガレクチン-3による腫瘍の免疫回避	花本敦	耳鼻咽喉科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
328	試験薬の直接的ベネフィットがない早期探索的臨床試験の倫理に関する研究	山本洋一	臨床試験部門	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
329	シスタチンCが腎臓や種々の臓器に及ぼす影響の検討	岩谷博次	血液浄化部	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
330	患者由来iPS細胞を用いた骨髄異形成症候群における骨髄微小環境の役割に関する解析	江副幸子	未来医療センター	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
331	骨髄系造血器腫瘍からの樹状細胞の分化とその意義の解析	水木満佐央	化学療法部	2,470,000	補 独立行政法人日本学術振興会
332	血管手術前後の各血管の血流量測定による脳内フローダイナミクスの解明	田中壽	放射線部	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
333	PETおよびMRIを用いた腫瘍内低血流域の特性評価	巽光朗	放射線部	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
334	悪性胸腺上皮性腫瘍のpodoplanin発現に基づいた集学的治療の開発	南正人	手術部	130,000	補 独立行政法人日本学術振興会
335	新規自己組織由来オリゴデンドロサイト/シュワン前駆細胞による再生治療法の開発	大西諭一郎	脳神経外科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
336	ミダゾラムの樹状細胞に対する分子免疫学的作用メカニズムの解明	大田典之	集中治療部	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
337	自殺未遂者の二次予防における病診連携強化及び医療ソーシャルワーカー介入の有効性	前川佳敬	保健医療福祉ネットワーク部	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
338	膵発癌における細胞死機構の解明	重川稔	内視鏡センター	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
339	経カテーテル的大動脈弁植込み術におけるONO-1301の弁周囲逆流抑制効果の検討	前田孝一	ハートセンター	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
340	iTRAQ法による網羅的膜蛋白質の解析を用いた子宮平滑筋肉腫の新しい治療法の樹立	松崎慎哉	総合周産期母子医療センター	2,470,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

17

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
341	「ネッツ」の制御による重症患者に対する新しい治療戦略の提案	関雅文	感染制御部	260,000	補 独立行政法人日本学術振興会
342	小児重症拡張型心筋症へのbridge-to-transplantation/recoveryを目指した骨格筋芽細胞シートの開発と実践	澤芳樹	心臓血管外科	24,196,369	補 厚生労働省
343	ハイリスク大動脈弁狭窄症患者に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術の有用性の評価ー日本における大動脈弁狭窄症に対する総括的治療戦略の構築ー	澤芳樹	心臓血管外科	28,492,918	補 厚生労働省
344	重症心不全に対する骨格筋芽細胞シート移植による心筋再生治療の実用化研究	澤芳樹	心臓血管外科	2,377,860	補 厚生労働省
345	血液凝固異常症に関する調査研究	富山佳昭	輸血部	5,500,000	補 厚生労働省
346	治験の実施に関する研究[小児用補助人工心臓]	澤芳樹	心臓血管外科	1,400,000	補 厚生労働省
347	治験の実施に関する研究[プリリアントブルーG250]	西田幸二	眼科	1,600,000	補 厚生労働省
348	多剤耐性結核に対する新規治療用DNAワクチンの開発・実用化に関する研究	朝野和典	感染制御部	1,000,000	補 厚生労働省
349	慢性特発性血小板減少性紫斑病(ITP)に対するリツキシマブの有効性と安全性の検討を目的とした第Ⅲ相オープンラベル試験	富山佳昭	輸血部	500,000	補 厚生労働省
350	関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復ー多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験	名井陽	未来医療センター	200,000	補 厚生労働省
351	TR実践のための戦略的高機能拠点整備	澤芳樹	未来医療センター	144,194,214	補 文部科学省
352	角膜上皮幹細胞疲弊症に対する自己培養口腔粘膜上皮細胞シート移植の多施設共同臨床試験	澤芳樹	未来医療センター	13,790,360	補 文部科学省
353	新規前立腺癌治療薬の医師主導治験の推進	澤芳樹	未来医療センター	11,900,000	補 文部科学省
354	皮質脳波を用いたワイヤレス体内埋込型運動・意思伝達機能補填装置	澤芳樹	未来医療センター	2,500,000	補 文部科学省
355	卵巣癌を対象とした分子標的治療薬BK-UMの臨床開発	名井陽	未来医療センター	13,600,000	補 文部科学省
356	0159-0073医療サービスの継続性を担保する電子カルテ秘密分散バックアップ技術の研究開発	松村泰志	医療情報部	4,569,474	委 総務省
357	平成25年度再生医療等産業化促進事業(大阪大学、重症心不全)	澤芳樹	心臓血管外科	209,067,712	委 経済産業省

小計

17

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
358	治療効果判定におけるPET/CTの標準化に関する研究(25-A-13)	巽光朗	放射線部	800,000	委 独立行政法人国立がん研究センター
359	研究協力『上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するPaclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin 3週毎点滴静注投与対Paclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin 3週毎腹腔内投与のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験』	木村正	産科婦人科	100,000	委 学校法人埼玉医科大学
360	(Prep-02/JSAP-05) 肺癌術前化学療法としてのGemcitabine+S-1療法(GS療法)の第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験(Prep-02/JSAP-05)	永野浩昭	消化器外科	20,000	委 特定非営利活動法人日本臨床研究支援ユニット

小計

3

計

360

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	今井敦子、他	循環器内科	Comprehensive metagenomic approach for detecting causative microorganisms in culture-negative infective endocarditis.	Int J Cardiol. 2014 Mar 15;172(2):e288-9.
2	木岡秀隆、他	循環器内科	Evaluation of intra-mitochondrial ATP levels identifies G0/G1 switch gene 2 as a positive regulator of oxidative phosphorylation.	Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 2014 Jan 7;111(1):273-8.
3	T. Oka, et al.	循環器内科	Angiogenesis and cardiac hypertrophy: maintenance of cardiac function and causative roles in heart failure	Circ Res. 2014; 114(3):565-71.
4	谷口 達典	循環器内科	Switching from carvedilol to bisoprolol ameliorates adverse effects in heart failure patients with dizziness or hypotension.	J Cardiol. 2013 Jun;61(6):417-22
5	南口 仁	循環器内科	Usefulness of overlapping of the E and A waves of the transmitral flow as a predictor of responders to cardiac resynchronization therapy.	Am J Cardiol. 2013 Jun 1;111(11):1613-8
6	Nakaoka Y*, et al	循環器内科	Tocilizumab for the Treatment of the Patients with Refractory Takayasu Arteritis.	International Heart Journal.54, 405-411, 2013
7	Ryota Kawase, et al	循環器内科	Deletion of progranulin exacerbates atherosclerosis in apoE knockout mice	Cardiovasc Res 100(1):125-133, 2013
8	Hamano T, et al	老年・腎臓内科学	Fibroblast growth factor 23 and 25-hydroxyvitamin D levels are associated with estimated glomerular filtration rate decline.	Kidney International 3(5):469-475 2013
9	Kaimori JY, et al	老年・腎臓内科学	Non-invasive magnetic resonance imaging in rats for prediction of the fate of grafted kidneys from cardiac death donors.	PLoS One 8(5):e63573 2013
10	Kamide K, et al	老年・腎臓内科学	GEANE study group; HOMED-BP study group. Genome-wide response to antihypertensive medication using home blood pressure measurements: a pilot study nested within the HOMED-BP study.	Pharmacogenomics 14(14):1709-21 2013
11	Kawai T, et al	老年・腎臓内科学	Prognostic impact of regional arterial stiffness in hypertensive patients.	Heart Vessels in press 2014
12	Kawai T, et al	老年・腎臓内科学	Carotid plaque score and intima media thickness as predictors of stroke and mortality in hypertensive patients.	Hypertens Res 36(10):902-9 2013
13	Kawai T, et al	老年・腎臓内科学	Alteration of vascular function is an important factor in the correlation between visit-to-visit blood pressure variability and cardiovascular disease.	J Hypertens. 31(7):1387-95 2013
14	Kawai T, et al	老年・腎臓内科学	Which indexes are the most important risk factor for cardiorenal events in type 2 diabetic patients?	Circ J. 77(11):2700-1 2013

小計

14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
15	Kimura T, et al	老年・腎臓内科学	Autophagy protects kidney proximal tubule epithelial cells from mitochondrial metabolic stress.	Autophagy 9(11):1876-86 2013
16	Rakugi H, et al	老年・腎臓内科学	Effect of azilsartan versus candesartan on nocturnal blood pressure variation in Japanese patients with essential hypertension.	Blood Press 22 Suppl 1:22-8 2013
17	Rakugi H, et al	老年・腎臓内科学	Combination Therapy of Hypertension to Prevent Cardiovascular Events Trial Group. Combination therapy for hypertension in patients with CKD: a subanalysis of the Combination Therapy of Hypertension to Prevent Cardiovascular Events trial.	Hypertens Res 36(11):947-58 2013
18	Sakaguchi Y, et al	老年・腎臓内科学	Hypomagnesemia is a significant predictor of cardiovascular and non-cardiovascular mortality in patients undergoing hemodialysis.	Kidney Int 85(1):174-81 2014
19	Sakaguchi Y, et al	老年・腎臓内科学	Does hypomagnesemia predict faster progression of nondiabetic chronic kidney disease?	Am J Med 127(2):e13 2014
20	Sakaguchi Y, et al	老年・腎臓内科学	Association of nocturnal hypoxemia with progression of CKD.	Clin J Am Soc Nephrol 8(9):1502-7 2013
21	Shimamoto K, et al	老年・腎臓内科学	Nifedipine controlled-release 40mg b.i.d. in Japanese patients with essential hypertension who responded insufficiently to nifedipine controlled-release 40 mg q.d.: a phase III, randomized, double-blind and parallel-group study.	Hypertens Res 37(1):69-75 2014
22	Shimomura A, et al	老年・腎臓内科学	Dietary L-Lysine Prevents Arterial Calcification in Adenine-Induced Uremic Rats.	J Am Soc Nephrol in press 2014
23	Takeda S, et al	老年・腎臓内科学	Increased blood-brain barrier vulnerability to systemic inflammation in an Alzheimer disease mouse model.	Neurobiol Aging. 34(8):2064-70 2013
24	Yamamoto K, et al	老年・腎臓内科学	Response to comment on: Takeda et al. Loss of ACE2 exaggerates high-calorie diet-induced insulin resistance by reduction of GLUT4 in mice.	Diabetes 62(7):e10 2013
25	Takabatake Y, et al	老年・腎臓内科学	Autophagy and the kidney: health and disease.	Nephrol Dial Transplant in press 2014
26	Matsui I, et al	老年・腎臓内科学	Retention of fetuin-A in renal tubular lumen protects the kidney from nephrocalcinosis in rats.	The American Journal of Physiology 304(6):F751-60 2013
27	山田涼子	消化器内科	Significance of liver stiffness measurement by acoustic radiation force impulse (ARFI) among hepatitis C patients.	J Med Virol 2014 Feb;86(2):241-7.
28	鎌田佳宏	消化器内科	Serum Fucosylated Haptoglobin as a Novel Diagnostic Biomarker for Predicting Hepatocyte Ballooning and Nonalcoholic Steatohepatitis.	PLoS One. 2013 Jun 21;8(6):e66328

小計



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
29	日山智史	消化器内科	Narrow band imaging with magnifying endoscopy for Peyer's patches in patients with inflammatory bowel disease.	Digestion. 2013;87(4):269-80
30	林 義人	消化器内科	CagA mediates epigenetic regulation to attenuate let-7 expression in Helicobacter pylori-related carcinogenesis.	Gut. 2013 Nov;62(11):1536-46
31	小瀬嗣子	消化器内科	Using early viral kinetics to predict antiviral outcome in response-guided pegylated interferon plus ribavirin therapy among patients with hepatitis C virus genotype 1.	J Gastroenterol. 2014 Apr;49(4):737-47.
32	入江 陽子	内分泌・代謝内科	The Utility of Carotid Ultrasonography in Identifying Severe Coronary Artery Disease in Asymptomatic Type 2 Diabetic Patients Without History of Coronary Artery Disease.	Diabetes Care. 36(5):1327-1334, 2013
33	小澤 純二	内分泌・代謝内科	Early postprandial glucagon surge affects postprandial glucose levels in obese and non-obese patients with type 2 diabetes.	Endocr J. 60(6): 813-818, 2013
34	小澤 純二	内分泌・代謝内科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitors are effective in Japanese type 2 diabetic patients with sustained endogenous insulin-secreting capacity, a higher body mass index and insulin resistance.	J Diabetes Investig. 4(2):190-194, 2013
35	片上 直人	内分泌・代謝内科	Carotid ultrasonography: A potent tool for better clinical practice in diagnosis of atherosclerosis in diabetic patients.	J Diabetes Investig. 5(1):3-13, 2014
36	木村 武量	内分泌・代謝内科	Pseudohypoglycemia or hyperglycemia caused by interference with self-monitoring blood glucose measurements in anticancer ascorbic acid therapy.	J Diabetes Investig. 4(6):679-680, 2013
37	藤島 裕也	内分泌・代謝内科	Effect of adiponectin on cardiac $\beta$ -catenin signaling pathway under angiotensin II infusion.	Biochem Biophys Res Commun. 444(2):224-229, 2014
38	Minami T, et al	Dept. of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases, Osaka University Graduate School of Medicine. Laboratory of Immunochemistry, World Premier International Research Center (WPI), Immunology Frontier Research Center and	Overcoming chemoresistance of small-cell lung cancer through stepwise HER2-targeted antibody-dependent cell-mediated cytotoxicity and VEGF-targeted antiangiogenesis.	Scientific Reports; 3:2669,2013
39	Shima Y, et al	Department of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases Y,	Expansion of range of joint motion following treatment of systemic sclerosis with tocilizumab.	Mod Rheumatol. 2013 Mar 1. [Epub ahead of print]
40	Ogata A, et al	Department of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases	A Phase 3 Noninferiority Study of the Efficacy and Safety of Subcutaneous Tocilizumab Monotherapy Versus Intravenous Tocilizumab Monotherapy in Patients With Rheumatoid Arthritis With an Inadequate Response to Synthetic and/or Biologic DMARDs in Japan (MUSASHI Study).	Arthritis Care Res (Hoboken). 2014;66(3):344-54.
41	Yoshida Y, et al	Department of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases, Osaka University Graduate School of Medicine,	Clinical characteristics and incidence of methotrexate-related lymphoproliferative disorders of patients with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol. 2014 Feb 5. [Epub ahead of print]
42	西村純一、他	血液・腫瘍内科	Genetic variants in C5 and poor response to eculizumab.	New England Journal of Medicine 370(7):632-639, 2014

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
43	横田貴史、他	血液・腫瘍内科	The Satb1 Protein Directs Hematopoietic Stem Cell Differentiation toward Lymphoid Lineages.	Immunity 38(6):1105-1115, 2013
44	西田純幸、他	免疫・アレルギー内科、癌ワクチン療法学	Wilms tumor gene (WT1) peptide-based cancer vaccine combined with gemcitabine for patients with advanced pancreatic cancer.	Journal of Immunotherapy 37(2):105-14, 2014
45	Keisuke Hagihara, et al.	漢方医学科	Anti-Cytokine Therapy for AA Amyloidosis	DOI: 10.5772/53315.2013.6.12
46	Sawa Y, et al.	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University,	Cell sheet technology for heart failure.	Curr Pharm Biotechnol. 14:61(2013)
47	Sawa, Y, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, 2. Department of Thoracic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan	The first successful heart-lung transplantation in Japan: report of a case.	Surg Today, 43:1461(2013)
48	Sawa, Y	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	Current status of myocardial regeneration therapy.	Gen Thorac Cardiovasc Surg 61:17(2013)
49	Sawa, Y	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	Current status of myocardial regeneration rherapy	Personalized Medicine Universe 2:2-6(2013)
50	Fukushima N, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	Donor evaluation and management system (medical consultant system) in Japan: experience from 200 consecutive brain-dead organ donation.	Transplant Proc 45:1327-30 (2013)
51	Fukushima N, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University, Department of Thoracic Surgery, Osaka University, Department of Cardiothoracic Surgery, Tokyo University, Heart Institute Japan, Tokyo Women's Medical College, Department of Cardiovascular	Japanese strategies for maximizing lung availabilities: Experience from 100 consecutive brain dead donors.	Transplant Proc 45:2871-4 (2013)
52	Fukushima N.	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	A case of everolimus-associated chylothorax in a cardiac transplant recipient.	Transplant Proc 45:4545-15(2013)
53	Fukushima N.	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	How can we predict reversibility of organ dysfunction after implantation of left ventricular assist device? Editorial	Circ J 77:45-46 (2013)
54	Fukushima N.	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	Professional education of procurement transplant coordinators in Japan	J Nursing Education Practice, 3:16-26 (2013)
55	Fukushima S, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University, William Harvey Research Institute, Barts & The London School of Medicine & Dentistry, Queen Mary, University of London,	Choice of cell-delivery route for successful cell transplantation therapy for the heart.	Future Cardiology 9: 215-217 (2013)
56	Watanabe Y, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University; Department of Cardiovascular Surgery, Sakurabashi Watanabe Hospital	Hybrid endovascular repair of a dissecting thoracoabdominal aortic aneurysm with stent-graft implantation through the false lumen	J Vasc Surg 59: 264-7 (2013)

小計

14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
57	Miyagawa S, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	From Bench to Bedside, work in cell-based myocardial regeneration therapy	Journal of Biomedical Science and Engineering, vol.7, Feb 2014
58	Inoue M, et al	呼吸器外科	Clinicopathological characteristics and surgical results of lung cancer patients aged up to 50 years: The Japanese Lung Cancer Registry Study 2004	Lung Cancer, 2014 Feb;83(2):246-51
59	Shintani Y, et al	呼吸器外科	Experience with thoroscopic resection for mediastinal mature teratoma: a retrospective analysis of 15 patients.	Interact Cardiovasc Thorac Surg., 2013 Apr;16(4):441-4
60	Shintani Y, et al	呼吸器外科	Pulmonary fibroblasts induce epithelial mesenchymal transition and some characteristics of stem cells	Ann Thorac Surg,2013 Aug;96(2):425-33
61	Shintani Y, et al	呼吸器外科	Pulmonary pleomorphic carcinoma with rapid progression.	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals, 2013 Apr;21(2):231-4
62	Kawamura T, et al	呼吸器外科	Hydrogen gas reduces hyperoxic lung injury via the Nrf2 pathway in vivo	American Journal of Physiology – Lung Cellular and Molecular Physiology ,2013 May 15;304(10):L646-56
63	Kanzaki R, et al	呼吸器外科	Bilateral mediastinal neurofibroma of the vagus nerves in a patient with neurofibromatosis type 1.	Ann Thorac Cardiovasc Surg,2013;19(4):293-6
64	Kimura T, et al	呼吸器外科	The oncological feasibility and limitations of video-assisted thoracoscopic thymectomy for early-stage thymomas	Eur J Cardiothorac Surg, 2013 Sep;44(3):e214-8
65	Fujiwara A	呼吸器外科	Bilateral ovarian metastasis of non-small cell lung cancer with ALK rearrangement	Lung cancer,2014 Feb;83(2):302-4
66	Nagano H.	消化器外科	Combined IFN- $\alpha$ and 5-FU treatment as a postoperative adjuvant following surgery for hepatocellular carcinoma with portal venous tumor thrombus.	Exp Ther Med,2013,5(1):3-10
67	Yamamoto H.	消化器外科	Distinct expression of C4.4A in colorectal cancer detected by different antibodies.	Int J Oncol,2013,42(1):197-201
68	Yamamoto H.	消化器外科	Ephrin-A1 mRNA is associated with poor prognosis of colorectal cancer.	Int J Oncol,2013,42(2):549-555
69	Nishimura J.	消化器外科	The possibility of using fibrin-based collagen as an antibiotic delivery system.	Surg Today,2013,43(2):185-190
70	Miyata H.	消化器外科	Larynx-preserving limited resection and free jejunal graft for carcinoma of the cervical esophagus.	World J Surg,2013,37(3):551-557

小計

14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
71	Takiguchi S.	消化器外科	Effect of rikkunshito, a Japanese herbal medicine, on gastrointestinal symptoms and ghrelin levels in gastric cancer patients after gastrectomy.	Gastric Cancer,2013,16(2):167-174
72	Yamamoto H.	消化器外科	Low-dose dacarbazine-doxorubicin therapy against intra-abdominal desmoid tumors.	Oncol Rep,2013,29(5):1751-1755
73	Hata T.	消化器外科	A phase II study evaluating the feasibility of a 5-week cycle of S-1 plus irinotecan (IRIS) in patients with advanced and recurrent colorectal cancer.	Cancer Chemother Pharmacol,2013,71(6):1657-1663
74	Miyazaki Y.	消化器外科	Clinical significance of surgery for gastric submucosal tumours with size enlargement during watchful waiting period.	Eur J Cancer,2013,49(12):2681-2688
75	Tomimaru Y.	消化器外科	The SxxSS motif of T-cell factor-4 isoforms modulates Wnt/ $\beta$ -catenin signal activation in hepatocellular carcinoma cells.	Cancer Lett,2013,336(2):359-369
76	Tomokuni A	消化器外科	Effect of in vivo administration of reprogramming factors in the mouse liver.	Oncol Lett,2013,6(2):323-328
77	Takiguchi S.	消化器外科	Preservation of the Celiac Branch of the Vagus Nerve during Laparoscopy-assisted Distal Gastrectomy: Impact on Postprandial Changes in Ghrelin Secretion.	World J Surg,2013,37(9):2172-2179
78	Marubashi S.	消化器外科	Laparoscopy-assisted hybrid left-side donor hepatectomy.	World J Surg,2013,37(9):2202-2210
79	Mizushima T.	消化器外科	The effects of chemotherapy on primary small bowel cancer: A retrospective multicenter observational study in Japan.	Mol Clin Oncol,2013,1(5):820-824
80	Kurokawa Y.	消化器外科	Which is the optimal response criteria for evaluating preoperative treatment in esophageal cancer: RECIST or histology?	Ann Surg Oncol,2013,20(9):3009-3014
81	Takiguchi S.	消化器外科	Laparoscopy-assisted distal gastrectomy versus open distal gastrectomy. A prospective randomized single-blind study.	World J Surg,2013,37(10):2379-2386
82	Nagano H.	消化器外科	MicroRNA-29a induces resistance to gemcitabine through the Wnt/ $\beta$ -catenin signaling pathway in pancreatic cancer cells.	Int J Oncol,2013,43(4):1066-1072
83	Miyata H.	消化器外科	Relevance of [18F]fluorodeoxyglucose positron emission tomography-positive lymph nodes after neoadjuvant chemotherapy for squamous cell oesophageal cancer.	Br J Surg,2013,100(11):1490-1497
84	Nishida N.	消化器外科	EGFR gets in the way of microRNA biogenesis.	Cell Res,2013,23(10):1157-1158

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
85	Marubashi S.	消化器外科	Hepatic artery reconstruction in living donor liver transplantation: risk factor analysis of complication and a role of MDCT scan for detecting anastomotic stricture.	World J Surg,2013,37(11):2671-2677
86	Mizushima T.	消化器外科	A Phase II Study of Combined Chemotherapy with 5-Week Cycles of S-1 and CPT-11 plus Bevacizumab in Patients with Metastatic Colon Cancer.	Oncology,2013,85(6):317-322
87	Hata T.	消化器外科	Goshajinkigan oxaliplatin neurotoxicity evaluation (GONE): a phase 2, multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of goshajinkigan to prevent oxaliplatin-induced neuropathy.	Cancer Chemother Pharmacol,2013,72(6):1283-1290
88	Takahashi T.	消化器外科	New findings of kinase switching in gastrointestinal stromal tumor under imatinib using phosphoproteomic analysis.	Int J Cancer,2013,133(11):2737-2743
89	Miyazaki Y.	消化器外科	Clinical significance of ghrelin expression in the gastric mucosa of morbidly obese patients.	World J Surg,2013,37(12):2883-2990
90	Mizushima T.	消化器外科	Inhibition of Epithelial Cell Death by Bcl-2 Improved Chronic Colitis in IL-10 KO Mice.	Am J Pathol,2013,183(6):1936-1944
91	Eguchi H.	消化器外科	Preoperative Chemoradiotherapy, Surgery and Adjuvant Therapy for Resectable Pancreatic Cancer.	Hepatogastroenterol,2013,60(124):904-911
92	Tomimaru Y.	消化器外科	Predicting the necessity of autologous blood collection and storage before surgery for hepatocellular carcinoma.	J Surg Oncol,2013,108(7):486-491
93	Tomimaru Y.	消化器外科	Upregulation of T-cell factor-4 isoform-responsive target genes in hepatocellular carcinoma	Liver Int,2013,33(7):1100-1112
94	Tomimaru Y.	消化器外科	Loss of exon 4 in a human T-cell factor-4 isoform promotes hepatic tumorigenicity.	Liver Int,2013,33(10):1536-1548
95	Kawamoto K.	消化器外科	CD90- (Thy-1-) high selection enhances reprogramming capacity of murine adipose-derived mesenchymal stem cells.	Dis Markers,2013,35(5):573-579
96	Kurokawa Y.	消化器外科	Treatment approaches to esophagogastric junction tumors.	Digest Surg,2013,30(2):169-173
97	Oue T, et al	小児成育外科学	Hedgehog signal inhibitors suppress the invasion of human rhabdomyosarcoma cells	Pediatr Surg Int,29,1153-8, 2013
98	Uehara S, et al	小児成育外科学	Increased expression of survivin in hepatoblastoma after chemotherapy.	Eur J Pediatr Surg, 46, 326-331, 2013

小計

14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
99	Uehara S, et al	小児成育外科学	Repair of congenital diaphragmatic hernias through umbilical skin incisions	Pediatr Surg Int, 29, 529-532, 2013
100	Uehara S, et al	小児成育外科学	Prenatally detected giant congenital hemangioma of the fetal neck	J Pediatr Surg Case Reports,1, 29-31, 2013
101	Uehara S, et al	小児成育外科学	Abdominal neuroblastoma with inferior vena cava and right atrial extension	J Pediatr Surg Case Reports, 1, 119-121, 2013
102	Ueno T, et al	小児成育外科学	Impact of pediatric intestinal transplantation on intestinal failure in Japan: findings based on the Japanese intestinal transplant registry.	Pediatr Surg Int, 29(10), 1065-70, 2013
103	Ueno T, et al	小児成育外科学	A national survey of patients with intestinal motility disorders who are potential candidates for intestinal transplantation in Japan.	Transplant Proc, 45(5), 2029-31, 2013
104	Ueno T, et al	小児成育外科学	Conversion to prolonged-release tacrolimus for pediatric living related donor liver transplant recipients.	Transplant Proc, 45(5), 1975-8, 2013
105	Umeda S, et al	小児成育外科学	Impact of cow's milk allergy on enterocolitis associated with Hirschsprung's disease	Pediatr Surg Int, Nov;29(11), 1159-63, 2013
106	高静花	眼科	Effect of instillation of eye drops for dry eye on optical quality.	Investigative Ophthalmology & Visual Science. 54. 4927-4933, 2013
107	原千佳子	眼科	Laser-Induced Choroidal Neovascularization in Mice Attenuated by Deficiency in the Apelin-APJ System	Investigative Ophthalmology & Visual Science 2013, Vol54, No6, 4321-4329
108	原千佳子	眼科	CHOROIDAL THICKNESS IN EYES WITH TILTED DISK SYNDROME	RETINA 2014, Vol34, Issue3, 497-503
109	臼井審一	眼科	Changes in axial length and choroidal thickness after intraocular pressure reduction resulting from trabeculectomy.	Clinical Ophthalmology . 2013;7:1155-1161.
110	不二門 尚	眼科	Feasibility of 2nd Generation STS Retinal Prosthesis in dogs, 2013; :2013:3119-21.	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc
111	佐柳香織	眼科	Comparison of spectral-domain and high-penetration OCT for observing morphologic changes in age-related macular degeneration and polypoidal choroidal vasculopathy.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2014 Jan;252(1):3-9.
112	森本 壮	感覚機能形成学教室	Characteristics of Retinal Reflectance Changes Induced by Transcorneal Electrical Stimulation in Cat Eyes.	PLOS ONE, 9(3),2014

小計

14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
113	不二門 尚	感覚機能形成学教室	Feasibility of 2nd generation STS retinal prosthesis in dogs.	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc., 2013(Jul), pp.3119-3121, 2013
114	Imai T, et al	Department of Otorhinolaryngology – Head & Neck Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine	Pseudo-anterior canalolithiasis	Acta Otolaryngologica
115	Ogawa M, et al	1)Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Osaka University, Graduate School of Medicine, , 2)Department of Communication Sciences and Disorders, Prefectural University of Hiroshima	Immediate effectiveness of humming on the supraglottic compression in patients with muscle tension dysphonia	Folia Phoniatrica et Logopaedica 65(3): 123-128, 2013.
116	Morihana T, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	An inhibitory role for Sema4A in antigen-specific allergic asthma.	J Clin Immunol. 2013 Jan;33(1):200-9. doi: 10.1007/s10875-012-9798-5. Epub 2012 Sep 25.
117	Hanamoto A, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Limitation of 2-deoxy-2-[F-18]fluoro-D-glucose positron emission tomography (FDG-PET) to detect early synchronous primary cancers in patients with untreated head and neck squamous cell cancer.	Ann Nucl Med. 2013;27:880-5.
118	菅野伸彦	運動器医工学治療学	Nationwide investigation into adverse tissue reactions to metal debris after metal-on-metal total hip arthroplasty in Japan	Journal of Orthopaedic Science
119	菅野伸彦	運動器医工学治療学	Computer-Assisted Orthopaedic Surgery and Robotic Surgery in Total Hip Arthroplasty	Clin Orthop Surg
120	西井孝	整形外科	Alendronate treatment for hip osteoarthritis: prospective randomized 2-year trial.	Clinical Rheumatology 32:1759-1766, 2013.
121	Nishii T, et al	Department of Orthopaedic Medical Engineering, Osaka University Graduate School of Medicine Department of Orthopaedic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine,	Is ultrasound screening reliable for adverse local tissue reaction after hip arthroplasty?	J Arthroplasty. [Epub ahead of print]
122	前達雄	整形外科	Immediate postoperative anterior knee stability: Double-versus triple-bundle anterior cruciate ligament reconstructions.	Arthroscopy, 29:213-219, 2013.
123	Takashi Kaito, et al	1, Department of Orthopaedic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, 2, Department of Orthopaedic Surgery, Osaka Minami Medical Center	Predictors for the progression of cervical lesion in rheumatoid arthritis under the treatment of biological agents	Spine, 38(26), p2258-63, 2013
124	Takashi Kaito, et al	1, Department of Orthopaedic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, 2, Department of Orthopaedic Surgery, University of California, Los Angeles	Synergistic effect of bone morphogenetic proteins 2 and 7 by ex vivo gene therapy in a rat spinal fusion model	J Bone Joint Surg Am. 95(17), p1612-1619
125	平尾真	整形外科	Computer assisted planning and custom-made surgical guide for malunited pronation deformity after first metatarsophalangeal joint arthrodesis in rheumatoid arthritis. A case report.	Computer Aided Surgery, 19:13-19, 2014.
126	柏井将文	整形外科	Surgical treatment for osteoporotic vertebral collapse with neurological deficits: Retrospective comparative study of three procedures-anterior surgery versus posterior spinal shorting osteotomy versus posterior spinal fusion using vertebroplasty.	European Spine Journal, 22:1633-1642, 2013.

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
127	蛸名耕介	整形外科	Oxygen and air nanobubble water solution promote the growth of plants, fishes, and mice.	PLoS ONE, 8: e65339, 2013.
128	Hanafusa T, et al	Department of Dermatology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita city, Osaka, Japan	Increased frequency of skin-infiltrating FoxP3(+) regulatory T cells as a diagnostic indicator of severe atopic dermatitis from cutaneous T cell lymphoma.	Clin Exp Immunol 172(3):507-12,2013
129	Itoi S, Terao M, et al	Department of Dermatology, Integrated Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Japan.	11 $\beta$ -Hydroxysteroid dehydrogenase 1 contributes to the pro-inflammatory response of keratinocytes.	Biochem Biophys Res Commun 440(2):265-70,2013
130	Tanaka A, et al	1.Department of Dermatology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita-Shi, Japan 2.Department of Dermatology, Traumatology and Acute Critical Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita-Shi, Japan 3.Department of Dermatology, Ophthalmology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita-Shi, Japan 4.Department of Dermatology, Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Disease, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita-Shi, Japan	Adult case of Stevens-Johnson syndrome possibly induced by Chlamydomphila pneumoniae infection with severe involvement of bronchial epithelium resulting in constructive respiratory disorder.	J Dermatol. 40(6):492-4,2013
131	Tanemura A, et al	Department of Dermatology, Integrated Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, and Department of Dermatology, Kinki University Faculty of Medicine, Osakasayama, Japan	Alopecia areata: infiltration of Th17 cells in the dermis, particularly around hair follicles.	Dermatology. 226(4):333-6,2013
132	Wataya-Kaneda M, et al	Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Osaka University, Suita, Osaka, Japan Department of Biomedical Statistics, Graduate School of Medicine, Osaka University, Suita, Osaka, Japan	Trends in the Prevalence of Tuberous Sclerosis Complex Manifestations: An Epidemiological Study of 166 Japanese Patients.	PLOS ONE 8 (5): e63910,2013
133	Yamaga K, et al	1.Department of Dermatology, Osaka University Graduate School of Medicine Suita, Osaka, Japan 2.Department of Dermatology, Osaka University Graduate School of Medicine, Diabetes Center, University of California, 3.Department of Respiratory Medicine, Allergy, and Rheumatic Diseases, Osaka University Graduate School of Medicine.	Immune reconstitution inflammatory syndrome in a patient with adult-onset Still's disease: Graft-versus-host-like skin reaction with possible asymptomatic human herpes virus reactivation during steroid tapering.	Eur J Dermatol. 24(1):101-3, 2014
134	Itoi S, et al	1.Department of Dermatology Integrated Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Japan. 2.Department of Dermatology Integrated Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Japan. 3Department of Dermatology, Osaka City University Graduate School of Medicine, Japan.	Coexistence of Langerhans cells activation and immune cells infiltration in progressive nonsegmental vitiligo.	J Dermatol Sci 73(1):85-5,2014
135	富田興一	形成外科	Glial differentiation of human adipose-derived stem cells: Implications for cell-based transplantation therapy.	Neuroscience 236(16):55-65, 2013
136	富田興一	形成外科	Differentiated adipose-derived stem cells promote reinnervation of rat skin flaps.	Plastic and Reconstructive Surgery Global Open 1(3):e22, 2013
137	甲田 亨	神経内科・脳卒中科	Sema4A inhibits the therapeutic effect of IFN- $\beta$ in EAE.	J Neuroimmunol 2014, 268(1-2), 43-49
138	Yagita Y, et al	神経内科・脳卒中科	Functional deterioration of endothelial nitric oxide synthase after focal cerebral ischemia.	J Cereb Blood Flow Metab. 2013 Oct;33(10):1532-9. doi: 10.1038/jcbfm.2013.112. Epub 2013 Jul 3.
139	Aoki Y	精神医学	EEG and Neuronal Activity Topography analysis can predict effectiveness of shunt operation in idiopathic normal pressure hydrocephalus patients	Neuroimage Clin 3:522-530, 2013
140	Yamamori H	精神医学	Plasma levels of mature brain-derived neurotrophic factor (BDNF) and matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) in treatment-resistant schizophrenia treated with clozapine	Neurosci Lett 556(2013):37-41, 2013

小計

14



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
141	Kazui H	精神医学	Predictors of the disappearance of triad symptoms in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus after shunt surgery	vJ Neurol Sci 328(1-2):64-9, 2013
142	Hashimoto R	精神医学	The KCNH2 gene is associated with neurocognition and the risk of schizophrenia	World J Biol Psychiatry 14(2):114-20, 2013
143	有田英之	脳神経外科	Upregulating mutations in the TERT promoter commonly occur in adult malignant gliomas and are strongly associated with total 1p19q loss	Acta Neuropathol 2013 126:267-276
144	有田英之	脳神経外科	Management of glioblastoma in an NF1 patient with moyamoya syndrome: A case report	Childs Nerv Syst 2013 29:341-345
145	有田英之	脳神経外科	TERT promoter mutations rather than methylation are the main mechanism for TERT upregulation in adult gliomas	Acta Neuropathol 2013 126:939-941
146	平田雅之	脳神経外科	Clinical application of neuromagnetic recordings:from functional imaging to neural decoding	IEICE Trans Electron 2013 96-C:313-319
147	平山龍一	未来医療開発部	Training to acquire psychomotor skills for endoscopic endonasal surgery using a personal webcam trainer	J Neurosurg 2013 118:1120-26
148	細見晃一	脳神経外科	Altered extrafocal lomazenil activity in mesial temporal lobe epilepsy	Epilepsy Research 2013 103:195-204
149	細見晃一	脳神経外科	Cortical excitability changes after high-frequency repetitive transcranial magnetic stimulation for central poststroke pain	Pain 2013 154:1352-7
150	細見晃一	脳神経外科	Daily repetitive transcranial magnetic stimulation of primary motor cortex for neuropathic pain: a randomized, multicenter, double-blind, crossover, sham-controlled trial	Pain 2013 154:1065-72
151	岩月幸一	脳神経外科	Involuntary muscle spasm expressed as motor evoked potential after olfactory mucosa autograft in patients with chronic spinal cord injury and complete paraplegia	Journal of Biomedical Science and Engineering 2013 6:908-916
152	岩月幸一	脳神経外科	Transplantation of olfactory mucosa as a scaffold for axonal regeneration following spinal cord contusion in rats	Neuroscience & Medicine 2013 4:112-116
153	貴島晴彦	脳神経外科	Which is the Most Appropriate Disconnection Surgery for Refractory Epilepsy In Childhood?	Neurol Med Chir (Tokyo) 2013 53:814-20
154	二宮貢士	脳神経外科	T Case Report A case of intrapelvic sciatic nerve schwannoma presenting as piriformis syndrome	Journal of Neuroscience and behavioural health 2013 6:1-4

小計

14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
155	大西諭一郎	脳神経外科	Adult olfactory sphere cells are a source of oligodendrocyte and Schwann cell progenitors	Stem cell research 2013 11:1178-1190
156	押野悟	脳神経外科	Prevalence of cerebral aneurysm in patients with acromegaly	Pituitary 2013 16:195-201
157	齋藤洋一	脳神経外科	Electrical or repetitive transcranial magnetic stimulation of primary motor cortex for intractable neuropathic pain	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc 2013:6163-6
158	齋藤洋一	脳神経外科	Enhancement of withstanding pressure of fibrin sealant by modified mixing ratio of fibrin sealant components for skull base reconstruction: technical note	Neurol Med Chir (Tokyo) 2013 53:814-20
159	重松朋芳	脳神経外科	Endovascular therapy for asymptomatic unruptured intracranial aneurysms: JR-NET and JR-NET2 findings	Stroke 2013 44:2735-42
160	上田 豊	産科婦人科	Taxane-sensitivity of ovarian carcinomas previously treated with paclitaxel and carboplatin	Cancer Chemother Pharmacol 71:1411-1416, 2013
161	上田 豊	産科婦人科	A phase II study of combination chemotherapy using docetaxel and irinotecan for TC-refractory or TC-resistant ovarian carcinomas (GOGO-OV2 study) and for primary clear or mucinous ovarian carcinomas (GOGO-OV3 Study)	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 170:259-263, 2013
162	平松宏祐	産科婦人科	Conization using the Shimodaira-Taniguchi procedure for adenocarcinoma in situ of the uterine cervix	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 168:218-221, 2013
163	瀧内 剛	産科婦人科	Suppression of LUBAC-mediated linear ubiquitination by a specific interaction between LUBAC and the deubiquitinases CYLD and OTULIN	Genes Cells 19:254-272, 2014
164	小林栄仁	産科婦人科	Laparoscopic adnexectomy with peritonectomy for an ovarian tumor adhered to the pelvic sidewall	Gynecol Obstet Invest 75:250-254, 2013
165	小林栄仁	産科婦人科	Pedunculated subserous leiomyosarcoma mimicking ovarian cancer: case report and review of the literature	Gynecol Obstet 3, 2013
166	高橋 恵	産科婦人科	Disease flare-ups and obstetric outcomes in pregnant women with systemic lupus erythematosus	Hypertens Res Pregnancy 2:1-5, 2013
167	吉野 潔	産科婦人科	Salvage chemotherapy for recurrent or persistent clear cell carcinoma of the ovary: a single-institution experience for a series of 20 patients	Int J Clin Oncol 18:148-153, 2013
168	馬淵誠士	産科婦人科	A phase I study of concurrent weekly carboplatin and paclitaxel combined with intensity-modulated pelvic radiotherapy as an adjuvant treatment for early-stage cervical cancer patients with positive pelvic lymph nodes	Int J Gynecol Cancer 23:1279-1286, 2013

小計

14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
169	馬淵誠士	産科婦人科	Reirradiation using high-dose-rate interstitial brachytherapy for locally recurrent cervical cancer: a single institutional experience	Int J Gynecol Cancer 24:141-148, 2014
170	柿ヶ野藍子	産科婦人科	Imbalance of angiogenic factors and avascular edematous cystic villi in a trisomy 13 pregnancy: a case report	Placenta 34:628-630, 2013
171	木村 正	産科婦人科	Molecular analysis of parturition via oxytocin receptor expression	Taiwan J Obstet Gynecol 52:165-170, 2013
172	中川 慧	産科婦人科	Methods for cervical cancer screening: the differences between developing and developed countries	Cervical cancer: screening methods, risk factors and treatment options (Edited Elit, L.), Chapter2:33-40, Nova Science Publishers Inc, 2013
173	Matsuzaki S, et al	産婦人科	Large Uterine Cervical Adenomyoma Excised by Vaginal Approach: A Case Report, Images, and A Literature Review.	J Minim Invasive Gynecol. 2014 Feb 25. pii: S1553-4650(14)00174-5.
174	近藤 宏樹	小児科	sodium-coupled neutral amino acid transporter 4 functions as a regulator of protein synthesis during liver development.	Hepatology Resarch Volume 43, Issue 11, pages 1211-1223,2013.
175	別所 一彦	小児科	Integrative genomics identifies candidate microRNAs for pathogenesis of experimental biliary atresia.	BMC Syst Biol, 7: 104, 2013
176	別所 一彦	小児科	Gene expression signature for biliary atresia and a role for Interleukin-8 in pathogenesis of experimental diseases	Hepatology Volume 60, Issue 1, pages 211-223,2014.
177	藤原 誠	小児科	Detection and characterization of two novel mutations in the HNF4A gene in maturity-onset diabetes of the young type 1 in two Japanese families.	Horm Res Paediatr, 79(4) : 220-226,2013
178	藤原 誠	小児科	Treatment of hypophosphatemic rickets with phosphate and active vitamin D in Japan: A questionnaire-based survey.	Clin Pediatr Endocrinol 22(1):9-14,2013
179	大菌 恵一	小児科	Therapeutic use of oral sodium phosphate (phosribbon® combination granules) in hereditary hypophosphatemic rickets.	Clin Pediatr Endocrinol, 23(1):9-15,2014
180	大幡 泰久	小児科	Elevated fibroblast growth factor 23 exerts its effects on placenta and regulates vitamin D metabolism in pregnancy of Hyp mice.	J Bone Miner Res, volume29,issue 7,pages1627-1638,2014
181	北岡 太一	小児科	Two Japanese familial cases of caffey disease with and without the common COL1A1 mutation and normal bone density, and review of the literature.	Eur J Pediatr, 173(6) : 799-804,2014
182	高原 史郎	先端移植基盤医療学	Randomized comparative trial of mizoribine versus mycophenolate mofetil in combination with tacrolimus for living donor renal transplantation.	Clinical and Experimental Nephrology 2013.12 17(6) p899-904

小計

14

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
183	Ueda K	放射線診断科	Slow-growing primary marginal zone B-cell lymphoma arising in the chest wall in a patient without a history of tuberculosis.	Acta Radiol Short Rep. 18;2(2), 2013
184	Hori M	放射線診断科	Endometrial Cancer: Preoperative Staging Using Three-Dimensional T2-weighted Turbo Spin-Echo and Diffusion-weighted MR Imaging at 3.0 T - A Prospective Comparative Study.	Eur Radiol. 23(8):2296-2305, 2013
185	Maeda N	放射線診断科	Targeting and recanalization after embolization with calibrated resorbable microspheres versus hand-cut gelatin sponge particles in a porcine kidney model.	J Vasc Interv Radiol. 24(9):1391-8, 2013
186	Onishi H	放射線診断科	Hepatic steatosis: Effect on hepatocyte enhancement with gadoxetate disodium-enhanced liver MR imaging.	J Magn Reson Imaging. Epub. 2013
187	Osuga K	放射線診断科	In: Geschwind JFH, Dake MD, ed. Abrams' Angiography: Interventional Radiology, 3rd edition.	Philadelphia, Lippincott Williams & Wilkins, 361-36, 2013
188	磯橋 文明	放射線治療学	Dose-volume histogram predictors of chronic gastrointestinal complications after radical hysterectomy and postoperative concurrent nedaplatin-based chemoradiotherapy for early-stage cervical cancer.	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 85:728-734, 2013
189	磯橋 文明	放射線治療学	Patterns of radiotherapy practice for biliary tract cancer in Japan: results of the Japanese radiation oncology study group (JROSG) survey.	Radiat Oncol, 8:76, 2013
190	小川 和彦	放射線治療学	Old but new methods in radiation oncology: Hyperbaric oxygen therapy.	Int J Clin Oncol. 18(3):364-70, 2013
191	小川 和彦	放射線治療学	Radiotherapy targeting cancer stem cells: current views and future perspectives.	Anticancer Res. 33(3):747-754, 2013
192	吉岡 靖生	放射線治療学	Re-irradiation using interstitial brachytherapy increases vaginal mucosal reaction compared to initial brachytherapy in patients with gynecological cancer.	Anticancer Res. 33:5687-92, 2013
193	吉岡 靖生	放射線治療学	Comparisons of late vaginal mucosal reactions between interstitial and conventional intracavitary brachytherapy in patients with gynecological cancer: speculation on the relation between pallor reaction and stenosis	Anticancer Res. 33:3963-8, 2013
194	吉岡 靖生	放射線治療学	The emerging role of high-dose-rate (HDR) brachytherapy as monotherapy for prostate cancer.	J Radiat Res. 54:781-8, 2013
195	Shimosegawa E, et al	核医学診療科、医薬分子イメージング学寄附講座、医療技術部放射線部門	Quantitative CBF measurement using an integrated SPECT/CT system: validation of three-dimensional ordered-subset expectation maximization and CT-based attenuation correction by comparing with O-15 water PET.	Ann Nucl Med. 2013 Nov;27(9):822-33.
196	Isohashi K, et al	核医学診療科、医薬分子イメージング学寄附講座、医療技術部放射線部門	Optimization of [11C]methionine PET study: appropriate scan timing and effect of plasma amino acid concentrations on the SUV.	EJNMMI Res. 2013 Apr 15;3(1):27.

小計

14

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
197	和田直樹	病理診断科	Characterization of subpopulation lacking both B-cell and plasma cell markers in Waldenström macroglobulinemia cell line	Laboratory Investigation, 94(1), 79-88, 2014 Jan
198	野島 聡	病理診断科、呼吸器免疫アレルギー内科、神経内科	A point mutation in Semaphorin 4A associates with defective endosomal sorting and causes retinal degeneration.	Nat Commun. 2013;4:1406.
199	Kashiwagi H, et al	血液・腫瘍内科 輸血部	Demonstration of novel gain-of-function mutations of $\alpha$ IIb $\beta$ 3: association with macrothrombocytopenia and glanzmann thrombasthenia-like phenotype.	Molecular Genetics & Genomic Medicine 1:77-86, 2013.
200	清水健太郎 外	高度救命救急センター	Communicating by electrolarynx with a blind tetraplegic spinal cord injury patient on mechanical ventilation in the ICU	Spinal Cord (2013,51,4)
201	廣瀬智也 外	高度救命救急センター	The effect of electrical muscle stimulation on the prevention of disuse muscle atrophy in patients with consciousness disturbance in the intensive care unit	Journal of Critical Care (2013,28,4)
202	廣瀬智也 外	高度救命救急センター	Altered balance of the aminogram in patients with sepsis - The relation to mortality	Clinical Nutrition (2014,33,1)
203	廣瀬智也 外	高度救命救急センター	Effectiveness of a simplified cardiopulmonary resuscitation training program for the non-medical staff of a university hospital	Scandinavian Journal of Trauma Resuscitation and Emergency Medicine (2014,22)
204	小倉裕司 外	高度救命救急センター	Epidemiology of severe sepsis in Japanese intensive care units: A prospective multicenter study	J Infect Chemother (2014,20,3)
205	Emiko T. Isomura, et al	First Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Osaka University, Graduate School of Dentistry, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Yao Municipal Hospital	Electrophysiologic evaluation of inferior alveolar nerve regenerated by bifocal distraction osteogenesis in dogs.	PRSJ. 132(4), 877-82. 2013
206	Emiko Tanaka Isomura, et al	First Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Osaka University, Graduate School of Dentistry, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Yao Municipal Hospital	Inferior alveolar nerve regeneration after bifocal distractin osteogenesis in dogs.	J Oral Maxillofac Surg. 65, e1-11. 2013
207	山田幸子	放射線部	Radiotherapy treatment planning with contrast-enhanced computed tomography: feasibility of dual-energy virtual unenhanced imaging for improved dose calculations	Radiation Oncology 9:168, 2014

小計

11

社

207

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
----	-------	--------	----	-----

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

回答しない

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 大阪大学医学部附属病院における倫理審査委員会標準業務手順、倫理審査委員会の運営に必要な手続き等を定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 目的、審議事項、組織、手続き、指導及び勧告	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 0 回
・ 研修の主な内容 基礎編：1 未来医療開発部の役割と活動 2 治験について 3 CRC と TRC の支援について 4 「人を対象とする医学系研究」をはじめの前知っておくべきこと	

更新編：1 新研究指針への対応

2 自主臨床研究のモニタリングについて

3 臨床研究におけるデータマネジメントの重要性～事例から学ぶ～

など



(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

研修プログラムは、本院と地域の中核病院が緊密に連携したプログラムで、専門研修医が地域基幹病院を移動して研修することで、それぞれの病院が得意とする分野の相互補完が可能となり、幅広い知識や技術の習得を促進し、豊富な症例を経験できるようにしている。

内科、外科領域は、内科認定医、外科専門医を取得して、さらにサブスペシャリティー（消化器病専門医、消化器外科専門医など）の専門医取得に継続するプログラムである。

なお、他の研修病院で専門医研修を行っている医師でも、将来阪大で専門研修、学位研究を希望する場合、適宜本プログラムへの参加を認めている。

また、平成27年8月には、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院として、医療法上の臨床研究中核病院に承認された。

2 研修の実績

研修医の人数	154人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
彦惣俊吾	循環器内科	寄附講座准教授	17年	
猪阪善隆	腎臓内科	准教授(科長)	26年	
巽智秀	消化器内科	講師(診療局長)	22年	
岩橋博見	内分泌・代謝内科	寄附講座准教授	24年	
井上幸治	呼吸器内科	助教	17年	
檜崎雅司	免疫・アレルギー内科	講師(副科長)	27年	
織谷健司	血液・腫瘍内科	准教授(診療局長)	30年	
竹屋泰	老年・高血圧内科	助教(病棟医長)	17年	
平将生	心臓血管外科	助教	11年	
新谷康	呼吸器外科	講師(診療局長)	20年	
竹政伊知朗	消化器外科	講師(診療局長)	21年	
島津研三	乳腺・内分泌外科	講師(診療局長)	20年	
田中夏美	小児成育外科	助教	14年	
森本壮	眼科	准教授	17年	
太田有美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	助教(病棟医長)	18年	
中紀文	整形外科	准教授	26年	
小豆澤宏明	皮膚科	講師	17年	
細川互	形成外科	教授(科長)	35年	
奥野龍禎	神経内科・脳卒中科	助教(病棟医長)	18年	
田中稔久	神経科・精神科	准教授(副科長)	26年	
香川尚己	脳神経外科	助教(診療局長)	17年	
入嵩西毅	麻酔科	助教	15年	
味村和哉	産科・婦人科	助教	11年	
青天目信	小児科	助教	15年	
藤田和利	泌尿器科	助教	15年	
本多修	放射線診断科	講師	22年	

磯橋文明	放射線治療科	特任准教授（診療局長）	14年	
内山昭則	集中治療部	講師	26年	
池田純一郎	病理部	准教授	12年	
中神太志	総合診療部	助教	12年	
小倉裕司	高度救命救急センター	准教授	27年	
高野 徹	臨床検査部	講師	20年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

1. 阪大GCPセミナー

内容：治験を実施するための基礎的知識の習得を目的とするとともに、治験の現状と問題点、今後の方向性について内部、外部の講師が体系的に解説・説明する

期間・回数：平成26年度実績

平成26年4月～平成27年3月 全11回 17：30～19：00（75分の講演と15分間の質疑応答）

参加人数：延べ352人（院内 院外）（平均32人/回）

2. 阪大臨床研究講習会

研修の主な内容：

基礎編：1 未来医療開発部の役割と活動

2 治験について

3 CRC と TRC の支援について

4 「人を対象とする医学系研究」をはじめの前に知っておくべきこと

更新編：1 新研究指針への対応

2 自主臨床研究のモニタリングについて

3 臨床研究におけるデータマネジメントの重要性～事例から学ぶ～

など

実施回数：年10回

参加人数：1567名（医師含む）

3. 目標管理スキルアップ講習会（医療技術部主催）

実施回数：4/3, 10/30, 11/6, 3/5

参加人数：377名

4. 疾患別統合勉強（医療技術部主催）

実施回数：7/3, 1/29

参加人数：212名

5. 大阪大学臨床栄養研究会（CNC）

研修の主な内容：臨床栄養に関するテーマ

実施回数：毎月1回（8月以外）

参加人数：平成26年度のべ320人程度

6. 栄養マネジメント部研修会

研修の主な内容：食事・栄養に関するテーマ

実施回数：年8回

参加人数：平成26年度のべ62人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容	AED研修	患者動作介助研修	医療安全講習	MRI安全管理講習会
・研修の期間・実施回数	6/5	6/19	7/17, 12/4	6/17～20
・研修の参加人数	42人	36人	129人	106人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

1. 摂南大学薬学部学生インターンシップ

内容：講義、関連施設見学、CRC業務の実際：CRC同行（OJT）、

ロールプレイング：インフォームドコンセント、報告会

期間・回数：2014年8月7日（木）～11日（月）：8時30分～17時00分、3日間

参加人数：4名（毎年3～4名）

## 2. 阪大GCPセミナー

内容：治験を実施するための基礎的知識の習得を目的とするとともに、治験の現状と問題点、今後の方向性について内部、外部の講師が体系的に解説・説明する

期間・回数：平成26年度実績

平成26年4月～平成27年3月 全11回 17：30～19：00（75分の講演と15分間の質疑応答）

参加人数：延べ352人（院内 院外）（平均32人/回）

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 金倉 讓	
管理担当者氏名	総務課長 藤江 進 薬剤部長 三輪 芳弘	医事課長 足立 博行 放射線部長 富山 憲幸

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌  検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書  処方せん 手術記録 看護記録 エックス線写真 各科診療日誌	総務課  医事課  薬剤部 手術部 看護部 放射線部 各診療科	カルテ等病歴資料は、1患者1カルテとし、コンピュータによる集中管理を行っている。 エックス線写真は、PACS(画像サーバ)で集中保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
	高度の医療の提供の実績	医事課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	中央クオリティマネジメント部 医事課
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	中央クオリティマネジメント部 医事課
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	中央クオリティマネジメント部 総務課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 総務課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	中央クオリティマネジメント部 医事課

	一項	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
--	----	------------------------------------	-----	--

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課 感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第二條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第三條	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	に掲げる体制の確保の状況	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療技術部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療技術部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療技術部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療技術部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	総務課長 藤江 進		
閲覧担当者氏名	総務課庶務係長 辰巳 裕三		
閲覧の求めに応じる場所	総務課庶務係		
閲覧の手続の概要 閲覧への希望が庶務係にあった場合に対応。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無												
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 患者中心の医療の実践</li><li>2. 診療情報の共有</li><li>3. 医療安全に関する組織的取り組み</li><li>4. インシデントの報告</li><li>5. 機能する医療事故防止対策</li><li>6. 適切な医療事故への対応</li><li>7. 患者からの医療相談の実施</li><li>8. 医療安全情報の共有</li><li>9. 職員に対する教育研修</li><li>10. 医療安全文化の構築</li><li>11. 医療安全管理マニュアルの作成・更新</li><li>12. 医療安全管理に関する指針の公開</li></ol>													
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 30 回												
<p>・ 活動の主な内容：</p> <table border="0"><tr><td>統括医療安全管理委員会：</td><td>本院における医療に係る安全管理について統括する</td><td>年11回</td></tr><tr><td>リスクマネジメント委員会：</td><td>医療事故の防止策を策定する</td><td>年 6回</td></tr><tr><td>医療クオリティ審議委員会：</td><td>医療の質の向上を図る</td><td>年13回</td></tr><tr><td>医療事故対策委員会：</td><td>医療事故が発生した場合の必要な対応を行う</td><td>年 0回</td></tr></table>		統括医療安全管理委員会：	本院における医療に係る安全管理について統括する	年11回	リスクマネジメント委員会：	医療事故の防止策を策定する	年 6回	医療クオリティ審議委員会：	医療の質の向上を図る	年13回	医療事故対策委員会：	医療事故が発生した場合の必要な対応を行う	年 0回
統括医療安全管理委員会：	本院における医療に係る安全管理について統括する	年11回											
リスクマネジメント委員会：	医療事故の防止策を策定する	年 6回											
医療クオリティ審議委員会：	医療の質の向上を図る	年13回											
医療事故対策委員会：	医療事故が発生した場合の必要な対応を行う	年 0回											
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回												
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療安全のための注意点</li><li>2. 安全確保の技術：指示・伝達のルール、誤薬防止対策、患者確認、転倒・転落防止</li><li>3. 転倒の予防～ここが危ない、こんな時注意</li><li>4. 除細動器の安全使用研修</li><li>5. 鎮静薬と副作用、植込型人工心臓について</li><li>6. 病棟薬剤業務における取り組み事例の検証</li><li>7. 免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン</li></ol>													
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況													
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>問題点の把握状況 (方法)</p> <p>【各部署】</p> <p>・ インシデントをイントラネット (インシデントレポート、医療クオリティ審議依頼書) から報告 (原</p>													

則として当事者)

**【リスクマネジメント委員会】**

- ・インシデントレポートのデータベースのモニター（毎日・当番制、要IDとパスワード）

**【医療クオリティ審議委員会】**

- ・医療クオリティ審議依頼書への報告内容の把握

**【中央クオリティマネジメント部】**

・専任リスクマネジャーによりインシデントレポートのモニターや報告された医療クオリティ審議依頼書の内容をもとに、事例に関する問い合わせ、現場の確認

問題点の分析状況（方法）

**【各部署・部門等】**

- ・当該部署、部門等にて事例の根本原因を分析

**【リスクマネジメント委員会】**

- ・当番委員によりインシデントの根本原因を分析

**【医療クオリティ審議委員会】**

・委員会において、医療クオリティ審議依頼書、報告者からのヒアリング、及び委員からの意見をもとにインシデントの根本原因を分析

**【中央クオリティマネジメント部】**

- ・専任リスクマネジャーによりインシデントの根本原因を分析

改善策の検討状況（方法）

**【各部署・部門等】**

・当該部署、部門等にてリスクマネジャーもしくは医療安全担当者が中心となり、改善策等を検討。必要に応じ、専任リスクマネジャーが介入

**【リスクマネジメント委員会】**

- ・インシデントの要旨と根本原因分析に基づいた再発防止策を提示
- ・事故防止策について意見交換、事故防止策を承認
- ・院内の他の委員会や他部門への検討や改善の申し入れ

**【医療クオリティ審議委員会】**

- ・審議依頼事例について、関係診療科・部門への再発防止策の検討や改善を指示
- ・各診療科・部門から提出された再発防止策について承認

**【中央クオリティマネジメント部】**

- ・専任リスクマネジャーによるインシデントに関する問い合わせ、現場の

点検、改善の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故防止策を実行するために必要な業務の実施、他部門との連携協力</li> <li>・ リスクマネジャーメーリングリストによる情報提供</li> <li>・ 院内ラウンド、院内相互チェックの実施計画</li> <li>・ リスクマネジャー会議（運営部会）の開催</li> <li>・ 教育のための教材を作成・教育の実施</li> <li>・ リスクマネジメントニュースの作成・発行（警鐘事例等の共有）</li> <li>・ QM（クオリティマネジメント）ニュース（医療安全広報誌）の作成・発行</li> </ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（ 3 名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 7 名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任（ 5 ）名 兼任（ 4 ）名</li> <li>・ 活動の主な内容：</li> </ul> 1. インシデントの調査・分析・レポート管理 2. 医療事故防止方策の検討・実施・評価 3. リスクマネジャー会議の開催 4. 職員研修の企画・実施 5. 医療安全推進及び教育のための教材の開発・活用 6. 現場のリスクマネジャー支援 7. 他の委員会や部署、各職種間の連絡調整 8. リスクマネジメント委員会等の開催準備及び支援 9. 医療事故後の患者及び家族等への対応支援等	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>・ 院内感染対策に関する組織的な取り組み</li><li>・ 感染制御部の設置と目的</li><li>・ 院内感染対策の対象者</li><li>・ 院内感染対策の内容</li></ul></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容： 感染対策委員会：<ul style="list-style-type: none"><li>① 内感染症の届出状況や抗菌薬の使用状況等の報告</li><li>② 院内感染対策についての審議 (感染対策の重要事項に関すること、必要に応じての指導助言に関すること、院内感染防止対策の施設基準に関すること等)</li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全職員対象：4回/年 院内感染対策 国際感染症について 国際化に伴う耐性菌の脅威 院内感染対策のまとめの報告</li><li>・ 対象別教育<ul style="list-style-type: none"><li>新採用者（研修医、看護師）-院内感染対策の基本についての講義と演習</li><li>部署単位での勉強会-耐性菌対策、抗菌薬の適正使用など部署の問題に応じた内容</li><li>外部委託業者（清掃員、洗浄員、受付、メッセンジャーなど）インフルエンザ対策</li></ul></li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無)</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>耐性菌サーベイランス、デバイスサーベイランス等のサーベイランスデータを元に対象部署に介入を行い感染対策の改善を図っている<ul style="list-style-type: none"><li>耐性菌サーベイランスを元にした介入（MRSA、MDRP、VRE、CRE、ESBL産生株など）</li><li>デバイスサーベイランス実施部署：ICU（BSI、UTI、VAP） 救命救急センター（BSI、UTI）</li></ul></li><li>薬剤部からのデータを元に抗菌薬適正使用にむけての介入を行っている<ul style="list-style-type: none"><li>特定抗菌薬使用時には、抗菌薬継続使用届の届出を必要とする</li><li>8日以上の特定制抗菌薬の継続使用時には抗菌薬継続使用届出を必要とする</li><li>対象患者のリストアップは専任薬剤師により行う</li></ul></li><li>専従の医師により、感染症治療コンサルテーションや継続使用時の介入により、抗菌薬適正治療を促進している</li></ul></li></ul>	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容： 26年度の講習会実施実績</li><li>・ 5月28日 医療機器・医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） （参加者数145名）「病棟薬剤業務の展開～各病棟での取り組み事例の紹介～」</li><li>・ 9月18日 医療機器・医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） （参加者数94名）「調剤時におけるヒヤリハット事例」</li><li>・ 11月20日 医薬品安全管理講習会 （参加者数 2295名）「病棟薬剤業務における取り組み事例の検証」</li><li>・ 1月28日 医療機器・医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） （参加者数94名）「麻薬の安全管理」</li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成 （○有・無）</li><li>・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品安全業務手順書の策定・見直し</li><li>・ 従業者に対する医薬品安全使用のための研修企画・実施</li><li>・ 業務手順書に基づく業務実施の確認・記録</li><li>・ 医薬品の安全使用のための情報収集その他改善方策</li></ul></li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （○有・無）</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 安全性速報（ブルーレター）等の重要安全情報の発信（委員および各部署医薬品安全管理者に速報）</li><li>・ 医薬品・医療機器等安全性情報(厚労省)No.312～320 速報</li><li>・ PMDA・製薬企業からの医薬品適正使用のお願い等の配信</li><li>・ 医薬品安全関連情報、院内副作用情報の HP 提供</li><li>・ 院内医薬品集追補発行、薬剤関連マニュアル改訂</li><li>・ ハイリスク薬表改訂</li><li>・ 薬品マスタ設定の変更による安全対策</li></ul></li></ul>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 226 回
・研修の主な内容： (1) 新規導入機器に関する安全使用研修 33 品目 67 回 受講者 1363 人 (2) 熟練を要する医療機器の安全使用研修 18 品門 23 回 受講者 175 人 (3) 特定機能病院必須管理機器の安全使用研修 人工心肺・補助循環装置 31 回 受講者 373 人 人工呼吸器 21 回 受講者 173 人 e-learning 受講 1118 人 血液浄化装置 7 回 受講者 54 人 閉鎖式保育器 1 回 受講者 7 人 除細動器 医療機器安全講習会での受講 2685 人 診療用放射線照射装置 3 回 受講者 34 人 (4) 実機を用いた医療機器研修 (OpenME) 19 回 受講者 94 人	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 4月の医療機器安全管理小委員会で今年度の保守点検計画の策定を承認 9月の医療機器安全管理委員会で保守点検の実施進捗状況を中間確認 3月の医療機器安全管理委員会で保守点検の実施結果を確認 それぞれ原議書にて院長はじめ病院管理者に閲覧確認を取っている。 対象機器は、特定機能病院必須管理機器6品目の臨床工学技士による点検とメーカーのサービスマンによる点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) PMDAや厚生労働省からの通知ならびに関連学会等からの安全情報を委員会に都度情報を提供すると共に、重要案件については病院リスクマネージャ全員に通知し全職員に周知するようにしている。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： [新しい医療機器導入時の安全使用研修の充実] 新規医療機器に対する安全使用研修の必要性を院内のリスクマネージャを対象とした会議や職員を対象とした医薬品・医療機器安全管理講習会で広報するとともに、各診療科と病棟に医療機器安全管理責任者名で研修様式を配布し啓発した。 また、院内に納入される医療機器に対して、納入業者から毎月納入機器を医療機器安全管理責任者に報告するシステムを確立し、病院に導入する医療機器が把握できるようになった。 これによって、安全使用研修が滞りなく実施されるようになった。	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

### 1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 平成23年1月に日本医療機能評価機構から(第2世代 Ver.6.0)認定された。また、同機構から平成27年11月に最新基準(第3世代 Ver1.1)の評価を受ける予定である。さらに平成28年2月には日本医療教育財団(JMIP)の外国人患者受入れ医療機関認証制度の評価を受ける予定である。	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

### 2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要 平成24年度に本院公式ホームページをリニューアルして以降、内容の充実を図るとともに、見やすくわかりやすい情報提供を行っている。今後も引き続き適切な情報発信を行う。	

### 3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 本院では、対象となる疾患等に対し、関連診療科や診療部門並びに関連医師やコメディカルが連携し、包括的な診断及び治療を実現するため、中央診療施設として以下のセンターを設置し、複数の診療科が連携して対応に当たる体制を整えている。 <ul style="list-style-type: none"><li>・脳卒中センター</li><li>・前立腺センター</li><li>・睡眠医療センター</li><li>・疼痛医療センター</li><li>・生殖医療センター</li><li>・ハートセンター</li><li>・小児医療センター</li><li>・オンコロジーセンター</li><li>・呼吸器センター</li><li>・てんかんセンター</li><li>・消化器センター</li><li>・IVRセンター</li><li>・胎児診断治療センター（平成27年10月設置）</li><li>・難病医療推進センター（平成28年1月設置予定）</li></ul>	